

# 2020 IMPACT REPORT



危機の中で一体となって、  
きれいで健康な海を目指す

**COMING TOGETHER  
IN CRISIS FOR A  
CLEAN &  
HEALTHY  
OCEAN**

A decorative title page featuring a light blue background with a wavy right border. In the bottom left corner, there is a small blue starburst graphic. The text "Table of" is written in a white, cursive, flowing font, and "CONTENTS" is in a large, bold, dark navy blue sans-serif font. The word "CONTENTS" has three horizontal blue wavy lines extending from its right side.

Table of

**CONTENTS**

目次

<b>ディレクターからの手紙</b>	<b>4 ページ</b>
<b>AWAREの紹介</b>	<b>6 ページ</b>
<b>世界の声</b>	<b>8 ページ</b>
<b>2020: 危機の中で一体となって、きれいな海を目指す</b>	<b>10ページ</b>
海洋科学の新たな10年	11ページ
<b>きれいな海</b>	<b>12ページ</b>
海洋ごみに取り組む	12ページ
私たちの海へのCOVID19の影響	14ページ
Dive Against Debris®の海洋ごみについての世界的研究情報	16ページ
拡大する市民科学運動	18ページ
Adopt a Dive Site®	19ページ
2020 Dive Against Debris® データレポート	20ページ
ごみと闘うパートナーシップ	24ページ
インパクト・ストーリー：ごみと闘うコミュニティの行動	25ページ
<b>健康な海</b>	<b>32ページ</b>
ブルーマニフェスト	33ページ
生物多様性に向けて団結する	34ページ
サメとエイの保護：2020年のハイライト	36ページ
#MakeorBreak4Makos	36ページ
インパクト・ストーリー：健康な海へのコミュニティ活動	38ページ
<b>AWARE Week: 2020</b>	<b>40ページ</b>
AWARE WEEKのインパクトと参加	42ページ
<b>サポーターの皆様</b>	<b>44ページ</b>
資金調達者	46ページ
100% AWAREパートナー	51ページ
団体パートナー	56ページ
寄付者	59ページ
寄贈の方法	60ページ
理事会	61ページ
Project AWAREスタッフ	61ページ
オフィス	62ページ
前へ進む	63ページ

# A LETTER FROM OUR *Director*

## ディレクターからの手紙

海洋を保護しようという目標と水中の冒険を求める情熱がひとつになると、どんなことになるのでしょうか

**この海の惑星のために実際の行動をとる  
世界的な運動になります。**

2020年に生じたこれまでにない困難にもかかわらず、Project AWAREのサポーターたちの個々の活動は全体として私たちの保護活動の目標を引き続き加速し、きれいで健康な海を取り戻そうという私たちのビジョンを前進させました。

この一年を通じて、Project AWAREは、新型コロナウイルス／COVID-19という未曾有のパンデミックに対して、フィンを履いて(水中)、そしてフィンを脱いで(陸上)の活動で応じ、この危機の間も、海洋保護に熱心な人々を引き続き結びつけています。波の上でも波の下でも、あるいはそれぞれの自宅から、私たちは健康な海の惑星をサポートしてひとつになったのです。

2020に、世界のDive Against Debris®データは次のレベルに一段上がりしました。「オーストラリア連邦科学産業機構 (Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation : CSIRO)」と「オーシャン・コンサーバンシー (Ocean Conservancy)」とのパートナーシップで、最初の査読を受けた科学研究を公表し、海岸線のごみと海洋床のごみの関係を調べることで、画期的な結果を示したのです。

私たちのコミュニティの市民科学者たちが集めたDive Against Debrisデータは、不可欠のデータギャップを埋め、海洋

環境への汚染のインパクトを和らげ、最終的には、健全な政策を促進させています。私たちのパートナーとともに、Project AWAREは2021年に、さらに複数の科学的な出版物で知り得たことを公表していく、諸政府に知らせ、巻き込んで、水中コミュニティの諸活動を政策変更にはっきりとリンクさせようと思います。私たちの基幹たるDive Against Debrisプログラムには、現在、124カ国の96,900人を超えるスクーバ・ダイバーが参加していますし、このプログラムによってこの惑星の海底ごみに関する最大の水中データの収集は引き続き成長しています。

2020の一年を通じて、Project AWAREは引き続き「Shark League : サメ同盟」パートナーや科学者たち、政府の役人、そして、最も重要なことには、私たちのサポーターと積極的に協働して、世界で最も差し迫ったサメ保護の危機のひとつである大西洋アオザメの絶滅の危機に取り組むために、大西洋の漁獲諸国からの支援を促しつゝ、それを追跡してきました。私たちはこの絶滅危惧種の保有を禁止するよう主要な漁業国に強く要請し、また、大西洋全域での漁獲禁止を引き続き推し進めました。さらに、世界のコミュニティに、自分たちの声をソーシャルメディアで発信し、大西洋アオザメの保護をサポートするよう強く促しました。現在までに、29,500人を超える方が「#Divers4Makos」の請願書に署名してくれています。

世界中のダイバーたちが AWARE WEEK2020 を祝って、2020年9月19日～27日に海の健康を護るために力を合わせました。今年で3回目になる1週間にわたるこのイベントは、今年、新しい形をとり、ダイバーたちとダイブリーダーたちがオンラインや自分のコミュニティ、できるところでは水中で参加しました。この1週間にわたる行事の間に、45カ国の人々で1,600人を超えるダイバーたちが、32,000品目を超えるごみを安全に集めたことを、胸を張って皆さんにお伝えしたいと思います。

この年は、誰もが予想したのとは間違いなく違う年でしたが、Project AWARE チームと世界のコミュニティが、2020年を通して、必要に応じて適応し、対応して動く能力を示してくれたことを誇りに思います。そして、最終的に、きれいで健康な海を取り戻すという私たちの使命を継続してくれたことを誇りに思います。こうした極めて重要な仕事は、私たちのパートナーや寄付者、世界的なコミュニティ、スタッフ、理事会メンバーがいなければ達成できなかっただろう。この水の惑星が良い方向に変わるように、陸上や水中で2020年に活動してくれたひとりひとりの方々すべてに感謝いたします。

**私たちは共にProject AWARE**  
**Where Conservation Meets Adventure<sup>SM</sup>**  
(そこは保護が冒険と出会うところ) です。



**ダナ・ムーア (Danna Moore)**  
グローバルオペレーション・ディレクター





# WHO WE ARE

AWEREの紹介

**Project AWARE®なら、  
未来を信じられます。  
もはや海を守らなくてよくなる  
という未来を信じられます。  
私たちは、海の冒険を求める  
情熱と海洋保護という目標を  
結びつけ、長く続く変化を  
作り出します。**

Project AWARE®が働きかけたいと思っている重要な場所は2つあります。 **コミュニティと政策**の2つです。私たちのグローバルコミュニティが、フィンを履いても、また、フィンを脱いでも行動できるように、そのためのツールとひらめきを私たちは提供しています。また、こうした行動を政策とリンクさせて、きれいで健康な海を取り戻す私たちのビジョンへ向かって進むようにします。

Project AWAREは公認の慈善団体で、オーストラリア、連合王国（イギリス）、アメリカ合衆国にオフィスがあり、日本にボランティアオフィスがあります。私たちは、海洋と海洋に依存しているコミュニティのために地域と世界的な変化を創り出すための行動を起こしています。地域での私たちの諸行動は、全体として最も傷つきやすい複数の海洋生物種を保護し、汚染を減らしています。

私たちは、冒険者たちのコミュニティからパワーを得ている海洋保護の世界的運動です。そこは自然保護が冒険と出会うところ（Where Conservation Meets Adventure™）です。



私たちは協力して、個人から成る**献身的なチーム**を世界中に送っています。その人たちは、本物で掛け値なしに環境を守る闘いに勝利するための**海洋保護と冒険への情熱**を共有している人たちです。



私たちは、個人、政府、NGO（非政府組織）それに企業といった、私たち同様、**海洋を保護する必要がなくなる**未来を信じているところと**協力し、共に創り出し、提携**しています。



私たちは、**政策の変更のために闘い**、全世界のボランティア・コミュニティを巻き込んで動かし、**世界的な海洋自然保護**のための具体的な諸目標に取り組んでいます。



# A GLOBAL VOICE

世界の声

多くの課題に直面しながらも、私たちは共にする海洋への情熱と、行動しなければ海洋を保護することはできないという信念で結ばれています。オンラインとオフラインで、私たちは海洋保護という目標を持った冒険への情熱を具体化し、結びつけ、協力するのに必要な行動を、かき立て、伝え、創り出し、共にしています。

私たちは海洋に味方する世界の声であり、また、この「2020年インパクト・レポート」は、世界のコミュニティと一緒に、私たちがきれいで健康な海に戻るために成し遂げられることのパワーを明らかにし、また、具体的に示してくれるものです。





**227.5K**

FACEBOOKの  
フォロワー



**168K**

INSTAGRAMの  
フォロワー



**18.3K**

2020年の  
YOUTUBEビデオ



**238.8K**

YOUTUBE閲覧  
2008年チャンネル  
開設以降



**11.7K**

LINKEDINの  
フォロワー



**46.6K**

TWITTERの  
フォロワー



# 2020: COMING TOGETHER IN CRISIS FOR A CLEAN & HEALTHY OCEAN

2020:危機の中で一体となって、  
きれいで  
健康な  
海を目指す



# 海洋科学の新しい10年

Project AWAREは、協力することが大事だということに信をおき、一緒ならもっと強力だということを理解しているので、望ましい海のために必要な市民科学を推進するよう、責任を持って係わって行きます。

傷つきやすい海洋生物種の取引管理を確実に実施することから、Dive Against Debris®活動の部隊を築き上げることまで、私たちの基幹である水中市民科学プログラムを次のレベルに引き上げて、2020年にProject AWAREは世界中のコミュニティの活動を積極的にこ入れしました。

スクーバ・ダイバーは1980年代の終わりから、海洋保護のためにProject AWAREのトーチ（松明）を高く掲げ続けています。ダイビング・コミュニティは、自分たちの全体的活動とサポートが重要なことを何回となく明らかにしてきましたが、世界的なパンデミックにもかかわらず2020年においてもそのことは変わりません。ダイバーのサメの観察例やサンゴ礁の健康のモニターの報告が少ないとか、海洋ごみのデータの提出が少ないとても、情報のちょっとしたひとつひとつ、提出された調査のひとつひとつが、世界の海洋生態系の持続可能な管理を助ける鍵となるのです。

Project AWAREは、科学者や他の鍵となる組織とパートナーを組み、Dive Against Debris®のデータを分析していますが、これは、研究を周知し、政策変更を進め、海洋ごみに関する私たちの知識と理解を前に進めるためです。

Project AWAREは、多岐にわたる世界的なデータをますます積み上げつつあり、さらにこれはごみが海洋に流れ込まないようになる効果的な防止手段を伝えるのに使えますし、生態系がおかしくなるのを抑えるのに役立ちます。各国は、Dive Against Debrisデータを使って、国内や国際レベルでの政策や法の制定を進めることができます。また、Project AWAREは、各国と一緒に責任を持って活動し、Dive Against Debrisを通しての報告に基づいて、その努力をどこに集めればよいかをはっきりさせるお手伝いもしています。

私たちのコミュニティには海を愛する個人だけではなく、仕事やNGO、それに団体パートナーで水中世界に対する私たちの情熱を共有する人たちが含まれています。ほんの数例を挙げると「サメ同盟（Shark League）」や「世界ゴースト・ギア・イニシアティブ（Global Ghost Gear Initiative）」「危機にある海（Seas At Risk）」、そして「100% AWARE」パートナーたちと一緒に、私たちは12ヶ月以上にわたって活動を続けてきました。「サメ同盟（サメとエイの信頼できる地域的保護を目指す連合体）」と共に、Project AWAREは科学に基づいたサメとエイの捕獲制限や絶滅危惧種の厳格な保護を確実にするように活動しています。

Project AWAREは、「世界ゴースト・ギア・イニシアティブ（Global Ghost Gear Initiative）」パートナーと一緒に、「Best Practice Framework for the Management of Fishing Gear（漁具管理を最善に実施する枠組み）」の採択をサポートするために、また、「地域漁業管理機関（RFMOs）」でゴースト・ギアを少なくする方法を促進するために、責任を持って活動しています。私たちは、捨てられた漁具、紛失した漁具、その他の廃棄された漁具に対して、一緒になって世界的規模で責任をもって取り組みます。

きれいで健康な海のためにProject AWAREと一緒に行動すれば、人類やこの惑星のために持続可能で復元力のある未来を支援する助けになります。

2020全体を通して、また、海の科学のこの新しい10年を見て、Project AWAREはコミュニティ主導の努力を加速する足場をしっかりと提供し、海洋を地域的、国家的、国際的レベルで保護し、回復させる科学に基づいた保護手段を確保します。



クレジット: Blue Corner Dive

# きれいな海

## 海洋ごみに取り組む

海洋汚染は、この海の惑星が直面している最も大きな脅威のひとつです。海洋ごみ – 私たちが出したごみが海に入ったもの – は、私たち人間自身の健康はいうに及ばず、海洋生物や生態系に長期に渡わたる大きなダメージを与えてています。

Project AWARE®には、海洋ごみに取り組んできた長い歴史があります。2020年を通して、新型コロナウイルス(COVID-19)により生じた困難にもかかわらず、戦略的なパートナーシップや地域コミュニティ活動、熱心な政策行動を通じて、きれいで健康な海に戻そうというビジョンに向けて引き続き努力してきました。

Dive Against Debris(私たちの基幹たる「きれいな海」プログラム)は引き続き発展し強化されています。2011年に開始された、その大きく掲げられた目標は、海底の海洋ごみに関する定量的データを得ること、それも、政策に訴え、かつ、あらゆる地理的規模で廃棄物管理プロセスを改善するのに十分耐えうるデータを得ることです。

このプログラムは、私たちのコミュニティとともに、現場でのクリーンナップから確実な市民科学プログラムへと発展し、成長してきました。Project AWAREは、Dive Against Debrisを地方自治体や各区政府が世界中でごみ管理政策を周知し報告するのに使える、信頼でき、かつ、科学的に健全で、費用対効果の高いモニタリングサービスとしての最先端になると極めて画期的な出来事を今や達成しつつあります。

2020年には、世界的な Dive Against Debris データが次のレベルに上りました。「オーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO : Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation)」と「オーシャン・コンサーバンシー：Ocean Conservancy」とパートナーシップで発表された最初の査読を受けた科学的研究で、海岸線のごみと海底のごみとの関係を調査した革新的な結果が示されました。2020には、特に地中海の海底ごみに関する Dive Against Debris 調査でわかった調査研究も公表され、この結果はヨーロッパ全体のごみ管理行動を展開するのに有効活用されています。

Project AWARE チームは、こうした海洋冒険者たちの活動的で創造的、かつ、支援を惜しまないコミュニティの一員であることに誇りを感じます。私たちの「きれいな海」活動は、永続性のある変化をもたらすのに必要な証拠を共同で積み上げができる方法を示しています。地域のコミュニティ活動を、査読を受けた科学や、地域や国レベル、国際レベルでの政策と結びつけ、海洋にごみが入るのを防ぐようにしています。

“DIVE AGAINST DEBRIS と ADOPT A DIVE SITE の範囲を拡げることを通じて、また、こうした率先した活動に広範な水中市民科学活動を取り込むことで、私たちはこのコミュニティに、目的を持ってダイビングすること、それに、決定的に重要な調査を進めるデータに貢献する機会をますます増やしています。”

- Ian Campbell  
Project AWARE政策・キャンペーン副責任者

# 新型コロナウイルス (COVID-19) の私たちの海への影響

2020年の、世界的な新型コロナウイルス (COVID-19) の世界的大流行は、人の健康が自然界との私たちの関係にどのようにつながっているかをこれまで以上に示しました。世界的大流行が始まったときは、人間活動が休止したことから海が恩恵を受けているように見えましたが、すぐに、新型コロナウイルス関連の廃棄物が海に流れ込み、海洋生物や海洋環境に悪影響を与えていたことが明らかになりました。

使い捨てマスクやラテックスの手袋から、テイクアウトやデリバリーの食べ物の注文がますます増えたことに関連する使い捨てのプラスチックまで、2020年を通して、新型コロナウイルスの廃棄物が海に流れ込んでいることが明らかです。世界中の、海岸を清掃する人やダイバーたちが世界の様々な場所で（海岸や海草床からサンゴ礁まで）、世界的大流行の関連の廃棄物を目にしています。

新型コロナウイルスの流行の跡を見ると、ごみ品目をモニターする力を持つことが、この世界の大流行が社会や経済、環境に与えた影響を評価するうえで、これまで以上に不可欠な要素になっていることがわかります。

Project AWAREは新型コロナウイルスの類のない突発という事態に対して、すべての人に海洋保護の情熱を持ち続けてもらい、一年を通じてつなぎ止めるために、フィンを脱いで（陸上）、フィンを履いて（水中）の行動で対応しました。水面の上と下で、あるいは、自宅から、私たちは健全な海の惑星を目指して一緒に立ち上りました。

いつもの海洋ごみの元凶に混じって、Dive Against Debris調査では、世界中のダイバーたちが使い捨てマスクやグローブ、手指の消毒用品を海洋環境から回収したと報告されています。Project AWAREと他の複数のNGOは、再利用できるマスクを使うこと、使い捨てのグローブ使うよりもこれまで以上によく手を洗うこと、できるだけ何度も使えるバッグや、ビン、ストロー、スプーンやフォーク、容器を引き続き選ぶようにすることを強く勧めています。Project AWAREはまた、「ブーメラン同盟、全国プラスチックを使わない場所のコーディナータープログラム：Boomerang Alliance, Coordinator of the National Plastic Free Places program」が発表した、新型コロナウイルスに対応したカフェとレストランのテイクアウトとデリバリーサービスのガイドラインを支援しました。このガイドでは、食品の小売店が使い捨てプラスチックを使わない方法や堆肥ができるどんなパッケージが使えるかが示されています。





# DIVE AGAINST DEBRIS®は 海洋ごみに関する 世界的研究を告知しています。

5月に『環境汚染ジャーナル (Journal of Environmental Pollution)』は「オーストラリア連邦科学産業研究機構 (CSIRO : Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation)」、「オーシャン・コンサーバンシー (Ocean Conservancy)」それに、Project AWAREの科学者たちの研究を掲載しました。これは、海岸線のごみと海底床のごみの関係を評価したものです。

その類の最初の世界的分析であるこの研究は、Project AWAREの「Dive Against Debris 海底床調査」とオーシャン・コンサーバンシーによる、海岸での「国際沿岸クリーンナップ」で得られたデータに基づき書かれたものです。

“これは、この組織や私たちのコミュニティ、海洋ごみ研究にとって重要で画期的な出来事です。この研究は、海洋へのこの顕著な脅威に関する今後の解決策を示すものとなるでしょう。この成果は、Project AWAREが、きれいで健康な海に戻るための私たちのビジョンをどのように前進させるか（コミュニティの行動を政策変更と戦略的に提携させる）の素晴らしい実例です。”

- ダナ・ムーア (Danna Moore)  
Project AWARE グローバルオペレーション・ディレクター

この研究は、Project AWAREチーム、私たちのパートナーたち、それに私たちのコミュニティの大変な努力を通して、ほとんど10年にわたって Dive Against Debris プログラムを進めてきたことの最高の成果です。分析された海底のデータは、7年にわたる（2011年から2018年）報告の成果で、86カ国におよぶ、総計915,430品目に上り、5,940件の市民科学調査によるものです。ひとつひとつの調査は、信頼できる海洋ごみ調査を確実に前進させられるように、内部で調査の質を精査されています。

海岸ごみと海底床ごみの全体的な違いが見つかった一方で、釣り糸やプラスチック袋（レジ袋）のように、絡まるものや沈んでいる品目で相関も見つかりました。CSIRO（オーストラリア連邦科学産業研究機構）の科学者たちによる統計的解析によると、浮力や引っかかり易さによって、海岸で見つかった品目が水中でも見つかるかどうかが最もよく予測できるということです。

まとめとして、この分析では、両方の場所を通じて最もよくある10品目は、タバコの吸い殻、釣り糸、プラスチック片、食品包装、ペットボトル、ガラス瓶、プラスチックのボトルキャップ、缶、レジ袋、発泡スチロールでした。このうち、7品目は、全部または一部がプラスチック製でしたが、5品目は食品・飲料業界に直接関連するものでした。

この研究は、市民科学プログラムが環境汚染を知らせ、改善するのに果たすことができる重要な役割を持っていることを明確に示していますし、水の下がどうなっているかを水の上で明らかにした、紛うことなき共同の成果でした。

“私たちの研究は、海岸と水中のクリーンナップから、海洋におけるごみの広がりについての決定的で相補的なデータが得られるのに留まらず、両方の場所に共通したこうした品目について、一致協力した行動が必要だということを強く訴えています。”

- ジョージ・レオナルド (George Leonard) 博士  
Ocean Conservancy 主任研究員

# 海岸線のごみ



合成樹脂発泡体



たばこの  
吸い殻



プラスチックの  
ボトルキャップ



他の  
プラスチック



レジ袋



プラスチックの  
釣り糸



プラスチックの  
破片



ペットボトル



ガラス瓶



缶



食品包装



漁網

# 海底ごみ

# 拡大する市民の科学運動

海洋ごみの回収を加速し、Dive Against Debrisを通じて報告することに責任を持って関わることで、Project AWAREは世界のダイビング・コミュニティに「すべてのダイビングを調査ダイビングに：Every Dive A Survey Dive」するよう促しています。これには、ごみ無しサイトを報告することも含まれています。戦略的に協力して、Project AWAREの「きれいな海戦略：Clean Ocean Strategy」は、人の健康と福祉を危険にさらす海洋環境のごみを確実に減らすのを手助けしています – すでに海洋にあるごみを回収し、また、何よりも海洋にさらにごみが流入するのを防ぐ解策に向けて努力しているのです。

2020年に、私たちは引き続き海洋のごみに明確に反対する立場をとるようダイバーたちに強く働きかけてきましたし、「すべてのダイビングを調査ダイビング (#EveryDiveaSurveyDive)」にするよう勧めてきました。ダイバーだけが、Dive Against Debrisデータを集めるために必要なスキルを持っていて、このデータは海洋ごみ危機の長い目で見た解決策を見つけるのに不可欠なものです。2020年は、ロックダウンと旅行が制限されたために、これまでより少ない人しか水中世界にアクセスできませんでしたが、海に入ったそれぞれのダイバーは海をきれいに保つために比類なき役割を果たしてくれました。

一緒にあって、私たちの活動は大きな結果をもたらしています…  
データが重要です！



# ダイブサイトを 選ぶ

パンデミックの影響のために、一般向けの Adopt a Dive Site イニシアティブは9月1日からこの年の終わりまで休止されました。素晴らしいことに、2020年にもこのプログラムを通じて合計37のダイブサイトが選ばれました。スクーバ・ダイビング・コミュニティの無比の水中スキルを身に纏って、Adopt a Dive Site は、世界中のスクーバ・ダイビングのリーダーたちに、次のように強く促しています。進行中の地元の自然保護に加わり、水中の私たちの遊び場を見守ろう、と。

合計で、世界の448のサイトが、責任を持った私たちのサポートーやボランティアたちに‘選ばれ’ました。このプログラムは、成長し拡大し続ける、私たちの世界的な市民科学の足跡に必要な基盤を提供してくれます。



“水中で違いを創り出すのは実に単純です。  
ダイバーたちは熱心な海の愛好者で、定期的に  
同じサイトに潜っていることがよくあります。

ADOPT A DIVE SITEなら彼らは  
地元のダイブサイトは自分のものだと感じて、  
きれいで健康な海にする解決策の一端を  
担える方法が得られます。”

- ペタ・ディ (Peta Day)

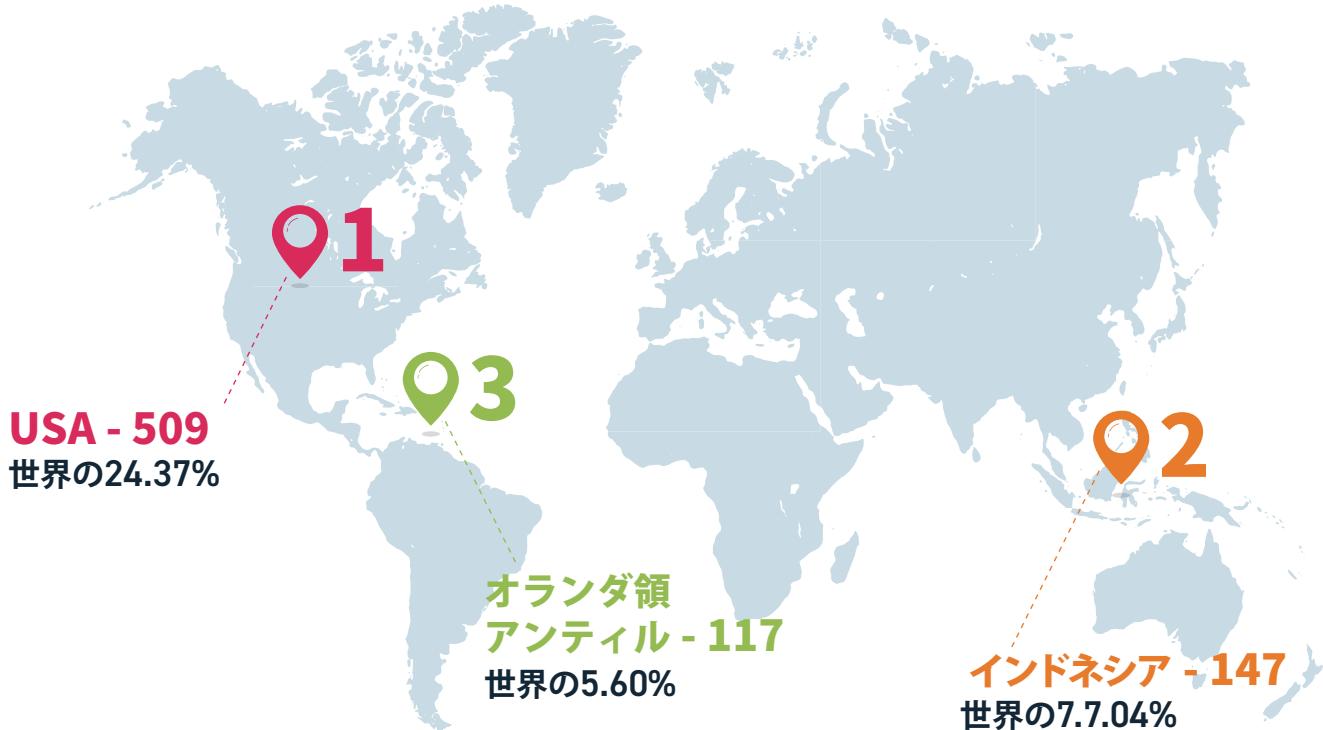
Project AWARE コミュニティ・コーディネーター

# 2020 DIVE AGAINST DEBRISデータレポート

質の高いDive Against Debris のデータ集計を確実にサポートするために、Project AWARE チームに提出された調査ひとつひとつが専任のスタッフによって綿密に質を審査されることになります。

以下のページには、作業全体のほんの一部と、それに加えて、私たちの政策の優先順位が健全なデータと科学に基づくものだと確信できる、舞台裏で行なわれているすべてのものを掲載してあります。

## 報告した国の トップ3



**2,088**  
調査  
(QR-合格のみ)

**1,762 時間**  
**水中で**

**1,585**  
絡まったく  
動物

**217**  
ごみなし調査

**80**  
参加国数

回収したごみの総重量:  
**42,519 kgs**  
**93,754 lbs**

**229,784 品目**  
**のごみを回収**

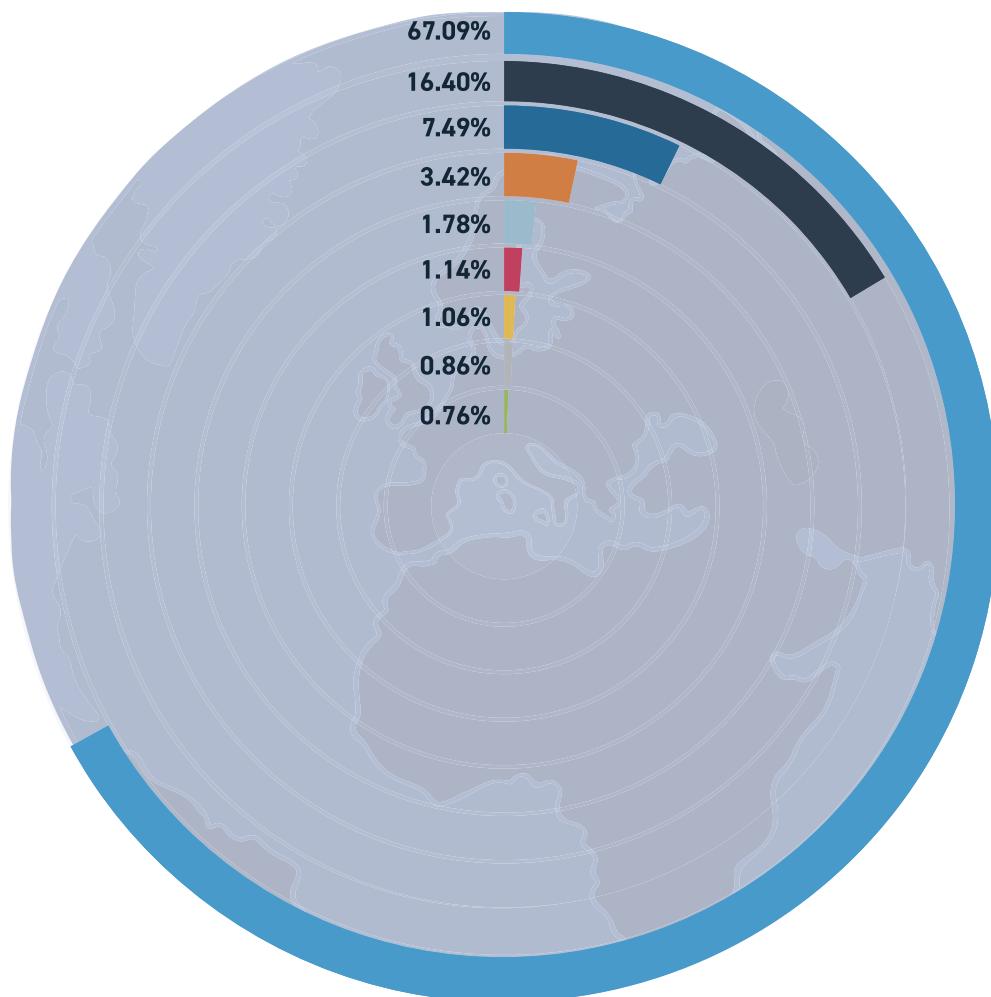
61.2% はプラスチック製品 (140,649)

**579**  
DIVE AGAINST  
DEBRIS スペシャルティ  
インストラクター  
およびトレーナー数

**10,164**  
参加者数

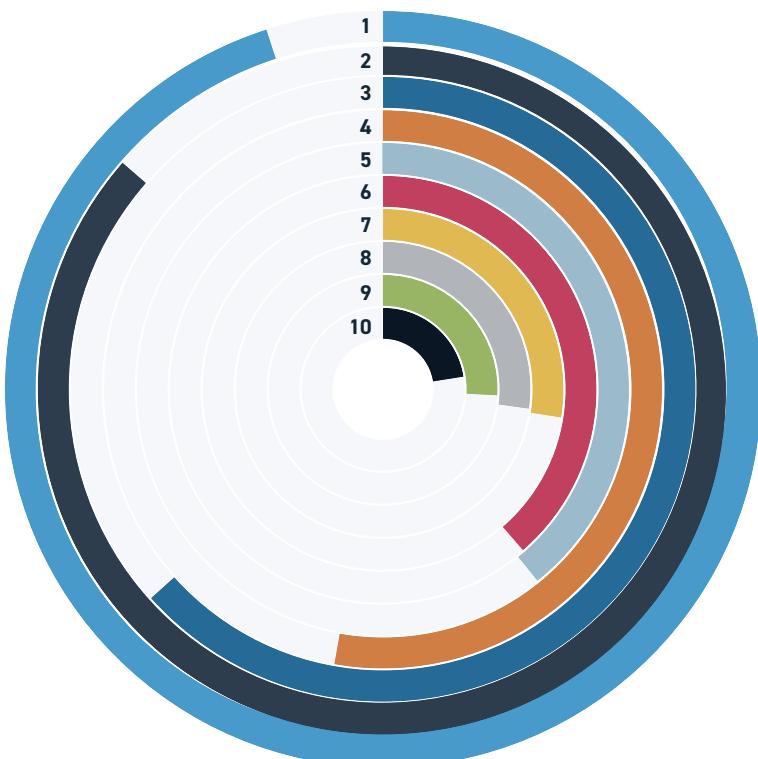
**1,533**  
DIVE AGAINST  
DEBRIS スペシャルティ  
受講生

# ごみ品目の内訳



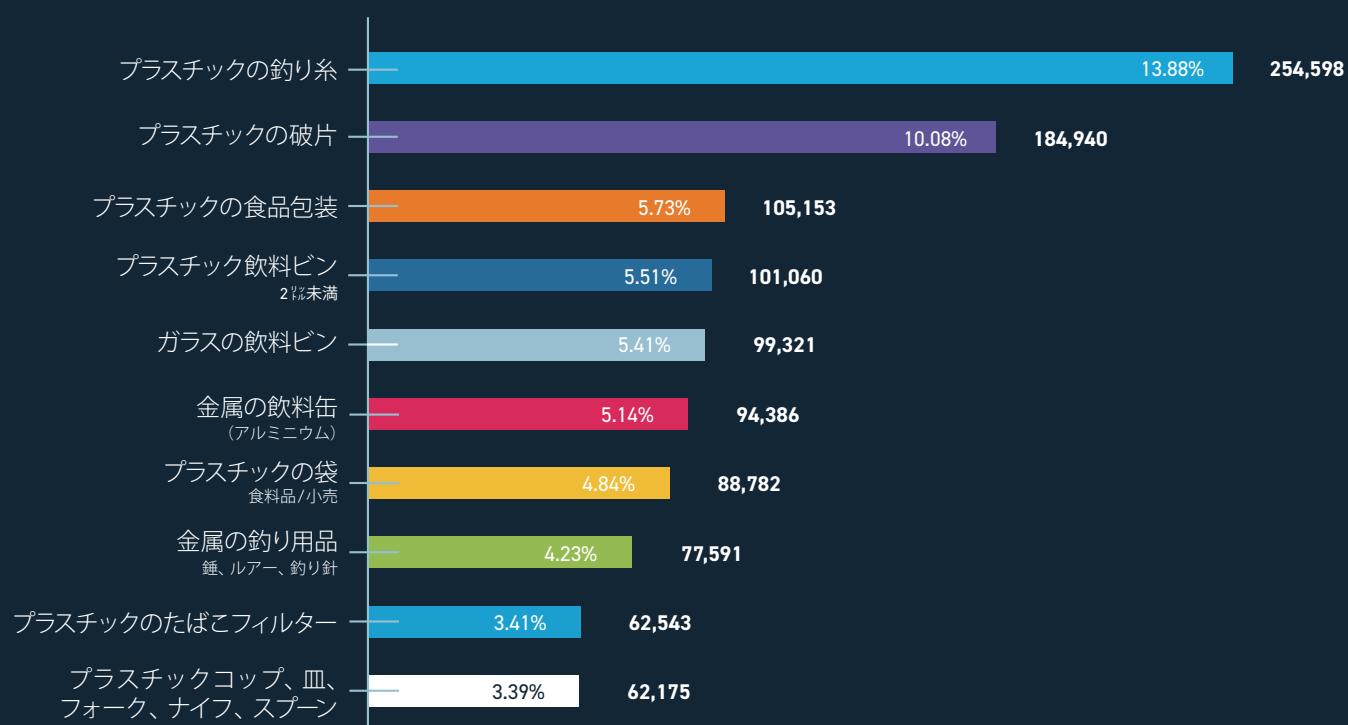
プラスチック	67.09%	140,649
金属	16.40%	34,375
ガラス・陶器	7.49%	15,697
布地	3.42%	7,161
その他	1.78%	3,723
混合物	1.14%	2,400
紙類および段ボール	1.06%	2,217
ゴム	0.86%	1,804
木材	0.76%	1,601

## 2020年単年にDIVE AGAINST DEBRISに報告されたごみ品目のトップ10



トップ10品目	数量	全品目中の%
1. プラスチック破片	28,074	9.52%
2. プラスチック釣り糸	25,478	8.64%
3. プラスチック食品包装	18,703	6.34%
4. プラスチック袋 (レジ袋) (食料品/小売)	15,594	5.29%
5. プラスチックたばこフィルター	11,567	3.92%
6. 金属釣り用品: 錘、ルアー、釣り針	11,419	3.87%
7. ガラス飲料瓶	8,119	2.75%
8. 金属飲料缶 (アルミニウム)	8,062	2.73%
9. プラスチックコップ、皿、 フォーク、ナイフ、スプーン	7,667	2.60%
10. ガラスおよび陶器 破片	6,698	2.27%

## 海洋で見つかったごみ品目のトップ10 2011 - 2020



# ごみと闘う パートナーシップ

海洋ごみの問題を解決は、パートナーシップ(大きなものも小さなものも)、それに、変革を求める支援の高まりなくしては不可能です。私たちは海洋ごみに関してユニークな水中の観点を持っていますが、その海洋ごみはスクーバ・ダイバーたちが報告するDive Against Debris® データを通して目に見える形になっているのです。

プラスの方向に変化を促すために、Project AWAREはこうしたイニシアティブや提携を通じて、ごみに反対するパートナーを組んでいます：



各種の注目されている国際フォーラムにおいて、Project AWAREは、冒険者たちの世界的コミュニティを代表し、力となる利害関係者に「きれいな海」戦略を伝えて、先頭に立って海洋ごみに取り組み、また、発生源で海洋ごみを防ぐための解決策を最優先にして活動を展開しています。

# インパクト・ ストーリー： ごみと闘う コミュニティ行動

## トーチベアラー（松明を掲げる先導者）としてのスタッフ

PADIのトーチベアラー・コミュニティは、海洋の欠かすことのできない味方です。海洋の健康を回復し、世界中の沿岸コミュニティを支援するのに動員できる善意の部隊です。そのためには、私たち全員が協力して活動し、私たちの情熱でひとつになり、明確な行動計画で備える必要があります。そして、全員で、というのは、文字通り「すべての人」ということです。

その中には、私たちのPADIコミュニティとProject AWAREスタッフも含まれています。10月にPADIトーチベアラー運動は引き続き牽引力を持っていましたので、私たちは、持続可能な選択をするという共通の目標について考え、それが自分たちの生活にどのように関わるのかを – 大きな意味でも小さな意味でも – 共有しました。



“旅行するとか、ちょっと散歩する時も、再利用できる水筒を持っていきますし、水飲み場で水を入れてプラスチックを減らすようにしています。家でも水道水を濾過して飲んでいます。おいしいですよ！”

- スタファニア・ディ・ディオ (Stefania Di Dio)  
Project AWARE コミュニケーション  
& 翻訳コーディネーター



“私は近くにある有機農場に行って、地元の果物や野菜を買うのが好きで、不要な包装をしてもらわないようにしています。夏の間は、畑で暖かいイチゴを摘むのは本当にごちそうですよ。”

- ローレン・ウィスカーソン (Lauren Wiskerson)  
Project AWARE  
開発マネージャー



*“Dive Against Debrisの再利用できるバッグは、ごみだけじゃない！私はいつも新しいのをいつも車に用意してあって、新鮮な野菜を買うときに使っています。”*

-ジャック・フィッシュマン (Jack Fishman)  
Project AWARE コミュニティ  
自然保護オフィサー



*“プラスチックごみを減らすのに、シャンプーをボトルから固形のものに替えただけでなく、自分の石けんを作ることにしたので、自分の肌につけているものがちゃんとわかります。それに、古くてかっこいいジンのボトルもリサイクルできます。”*

-ペタ・デイ (Peta Day)  
Project AWARE  
コミュニティ・コーディネーター



*“LEDライトに替えて、自宅でのエネルギー消費を少なくするのに加えて、電力を100%持続可能なソーラーエネルギーに替えました。車の運転はこの世界的流行で90%使うのを減らし、野菜を自分で育て、他に地元の有機農場から入手しています。できるだけリサイクルするようにして、使い捨てプラスチックを使わないようにし、地元の気候に合わせて土着の乾燥に強い木を植えて、水の消費を減らすような庭造りをしています。そして、自分のライフスタイルや消費者の選択、消費について全体的によく考えて、私の影響を減らすようにしながら、進んでいこうと思っています。”*

- ドリュー・リチャードソン (Drew Richardson)  
PADI Worldwide CEO



*“ひとつの家族として私たちが成し遂げた小さな変化は、再利用できるティーバッグと茶葉の紅茶に替えたことです。”*

- イアン・キャンベル (Ian Campbell)  
Project AWARE 政策・キャンペーン・  
アソシエーツディレクター

# クラカオ・スペシャル・サマー 水中クリーンナップ

クラカオのコミュニティは、  
自らが愛するものを護る戦いの  
真のリーダーです。そして、クラカ  
オ・スペシャル・サマー水中クリー  
ンナップとビーチクリーンナップは  
本当にこのことを裏書きしました。

FORCE BLUE やThe Dive Bus Curacao、Dive Curacao によつ  
て組織され、Project AWARE がサポートしたこのイベントは、  
コミュニティ精神を美しく想い出させてくれるものになりました。  
そこでは、この島で行なわれている Voedselbank Curacao  
(現地のフードバンク) を支援するためのダイバーとノン・ダイ  
バーの集まりが、困難な時期に献身的で同じ志を持つ人たち  
の集会となつたのでした。

“私たちの島の水中の生物は、私たちの島をカリブ海の  
他の島と分ける多くのもののひとつです。ですから、  
それはものすごく大事なもので、私たちみんなが  
持続可能なコミュニティとして力を合わせて、  
私たちの海を保護するようにしなければなりません。  
クラカオのダイビング業界が Dive Against Debris と  
Adopt a Dive Site イニシアティブに積極的に  
参加するのは、私たちの海の生き物を護り、  
それについての認識を広める第一歩です。

コミュニティ全体の支援とチームワークで、  
私たちはこの試みをさらに大きくして、  
持続可能な変化を生み出し、次の世代により  
健康な海洋環境を引き継げると  
私は確信しています。”

- マイルス・メルセア (Miles Mercera)  
クラカオ・ホスピタリティ・観光協会CEO  
クレジット：Gail Johnson Photography



Credit: Gail Johnson Photography

## リーフチェック・ブルネイ 幽霊漁網の回収

8月に、ボルネオ島のNGOであるリーフチェック・ブルネイ (Reef Check Brunei) は、ゴーストネットの撤去ダイビングを組織して、Project AWARE イニシアティブの下にある Dive Against Debris 調査を前に進め、この国全体でサンゴ礁の保全を強化しました。

「未来の海ボルネオ」の代表、ミリ・ロジャーとジョリー・ロジャーが加わって、12名のダイバーが、海洋保護区域の協会内にあるペロン・ペロンガン島の周辺の海域から約55キロ (120ポンド) のゴーストネット (幽霊漁網) を回収しました。

リーフチェック・ブルネイ (Reef Check Brunei) によれば、この地域のほとんどのサンゴ礁は新型コロナウイルス感染症の流行の影響で猶予を与えられているそうです。何年にもわたって、こここのサンゴ礁はものすごいダメージを受けてきました。爆発的な流行以降、制限的措置が講じられたおかげで、ブルネイのほとんどのサンゴ礁にちょっとした癒やしの時間がもたらされました。ゴーストネットを回収することで、このグループはブルネイのサンゴ礁が今後さらに健全になるように直接行動をとっています。



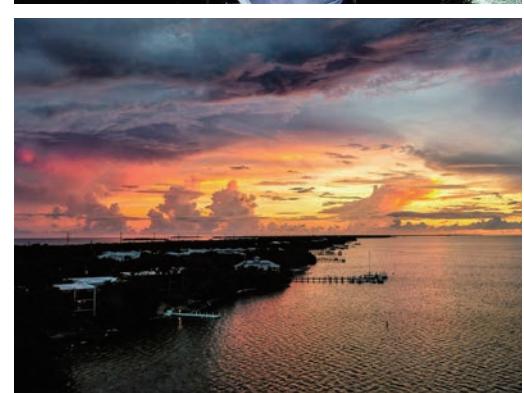
**“...RESTRICTIVE  
MEASURE IMPLEMENTED  
HAVE ALLOWED MOST  
CORAL REEFS IN BRUNEI  
SOME TIME TO HEAL.”**

“...制限的措置が  
講じられたおかげで、  
ブルネイのほとんどのサンゴ礁に  
ちょっとした癒やしの時間が  
もたらされました。”



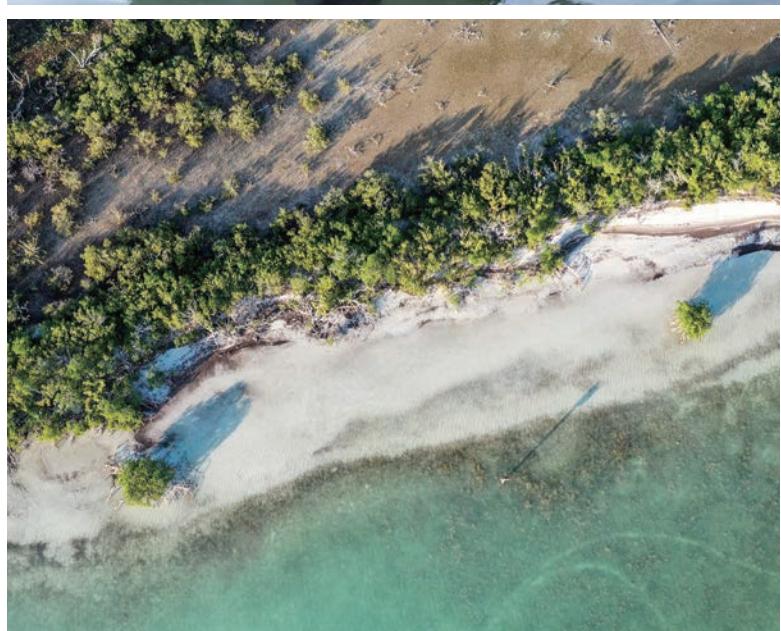
クレジット: Rainbow Reef Dive Center

クレジット: Josh Munoz





クレジット: Ocean Rays Photography





# A HEALTHY OCEAN

健康な海

# ブルーマニフェスト

Project AWAREは、2030年までに私たちの海を健康にするために、ヨーロッパの環境NGOに加わりました。2020年の1月に発表された、「ブルーマニフェスト」は、これまで危険にさらされ、汚染されてきた海洋と海岸線への流れを変えるために、設定された期日までに果たすべき具体的な行動をしっかりと計画しています。

これが成功するには、水の上と水の下の両方で変化がもたらされる必要があります。100以上の環境組織、これには、「Seas At Risk (危機にある海)」「BirdLife Europe (鳥の生活ヨーロッパ)」「ClientEarth (地球弁護人)」「Oceana (海洋)」「Surfrider Foundation Europe (サーフライダー基金ヨーロッパ)」「WWF (世界自然保護基金)」、それにももちろん、Project AWAREも含まれますが、次のように求めています：



少なくとも海洋の30%は  
2030年までに、高度にあるいは  
完全に保護されるべきである



インパクトの低い漁業への転換



汚染のない海洋を確保する



海洋生態系の繁栄を  
回復させるのを支える  
人間の活動を計画する

世界中の海洋生態系の状態は悲惨なことになっていて、これは、「国連気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」および「国連政府間科学-政策プラットフォーム (IPBES)」が最近公表した報告で強調されていることです。緊急行動が必要で、ヨーロッパはこの困難に

立ち向かう指導的役割を演じることができます。「ブルーマニフェスト」に示された勧告に留意することで、海洋を護り回復させるための正しい道にヨーロッパを乗せることができます。海洋は、ますます危機にさらされていて、地球上の生命はそれに支えられているのです。

「ヨーロッパ・グリーンディール (European Green Deal)」(注：2019年12月に発表された気候変動対策)によって、「ヨーロッパ委員会 (European Commission)」(注：EU執行機関)は、実際に気候と生物多様性の戦略に真剣に向き合うことになりました。これは、投資と法律を気候復元力のある、生態的に多様な未来に向かう方向に換えようというものです。NGOのこの集団はヨーロッパ委員会に、「ブルーマニフェスト」で提案されているガイドラインに従うことでの、海洋がこうした戦略の欠くことのできない一部であることを確認するよう求めています。



# 生物多様性のための連合

自然を基礎とした解決策が、人間の安寧を達成し、気候変動に取り組み、私たちの生きている惑星を護るための最善の方法です。

しかし、自然は危機にあります。

Project AWAREはその世界的コミュニティを動員して、#Biodiversity2020（生物多様性2020）のための行動を起こします。

3月3日の「2020 global World Wildlife Day（世界野生生物デー）」の祝典の一部として、ヨーロッパ委員会は生物多様性のための新しい世界的提携を開始しました：モナコの象徴である「海洋博物館」での「生物多様性のための連合（United For Biodiversity）」です。Project AWAREチームのメンバーたちはこのイベントに期待を胸にしながら参加し、「ヨーロッパ環境・海洋・漁業委員」のヴィルギニウス・シンケヴィチウス（Virginijus Sinkevičius）とUNEP（国連環境計画）事務局長のインガー・アンダーセン（Inger Andersen）が「生物多様性のための締約国会議」の第15回会議（CoP15）に先立ち、生物多様性を保護するためのより強力な動員を呼びかけるのに加わることに感激しました。

EU委員会は、すべての国立公園、水族館、植物園、科学と自然史博物館に対して、力を合わせて自然の危機に関する一般の認識高めるよう広報することを要請しました。また、全国、地方、地域の自治体、非政府組織（Project AWAREなど）、企業、科学者、個々の市民に対して、「国連生物多様性サミット」に向けて、それぞれの立場で意識を高めていくように促しました。

CoP15の際に、「生物多様性に関する国連会議」の締約国196ヶ国が、自然を保護し、回復させる新しい国際的

枠組みを採択する予定です。この枠組みは、「パリ協定」が気候危機にとって必要なと同じように、生物多様性の保護に必要です。CoP15は元々 2020年10月に行なわれる予定でしたが、会合は世界パンデミックを考慮して後ろにずらされて、2021年の春に計画し直されました。

「モナコ海洋博物館」は、「生物多様性のための連合協定」が開始されたことと「プラスチック汚染に反対する水族館」連合のリーダーシップが「EU委員会」から「国連環境プログラム（UNEP）」へ、「きれいな海」キャンペーンの下で引き継がれたことの両方を表明する式典を主催しました。この式典の後に、NGOやコミュニケーションの専門家、支援活動の専門家が参加するワークショップが行なわれ、「きれいな海」の下での「プラスチックに反対する水族館」の将来像を描く支援がなされました。

「**コミュニティ行動に焦点を当てたワークショップのセッション**のひとつの座長をし、アイデアや最善のやり方、事例研究を、情熱ある教育者や科学者、海洋擁護者と共に共有できて嬉しかったです。EU委員会に招待していただき、ワークショップに加えていたき、この得るもののが多かったイベントに参加できたことに感謝いたします。」

- ドミノ・アルバート（Domino Albert）  
Project AWARE  
グローバルコミュニケーション  
アソシエート・ディレクター



WORLD  
WILDLIFE DAY  
3 MARCH

(今日、ひとつしよう)

# #DoOneThingToday

## To help sustain all life on Earth

地球上のすべての命が持続できるように



#WWD2020

同じ3月3日に、世界中で人々は「**世界野生生物デー**」を祝いました。世界の野生の動物相と植物相を祝い、その認識を高める日です。私たちのような海洋冒険家たちにとって、海洋生物の価値を認識し、自分自身でそれを保護する責任を忘れないようにする機会でした。

Project AWAREは、世界的コミュニティが「世界野生生物デー 2020」を祝って私たちに加わるよう招待し、**#WWD2020**と**#DoOneThingToday**（今日ひとつのことをしよう）とタグ付けして、海洋生物のための行動をとるよう人々に促しました。



# サメとエイの保護 2020年の ハイライト

新型コロナウイルスの世界的な感染流行で生じた困難にもかかわらず、2020年はサメの保護にとって重要な年でした。乱獲と生息地の喪失は海洋生物に迫る2つの最大の脅威です。Project AWAREはサメとエイの種の保護を、常にこの問題の核心に位置づけてきました。多くのものが特に乱獲と決定的な生息地の喪失の両方に対して脆弱だからです。実際、サメとエイの4種に1種は、主として乱獲と生息地の喪失のためにますます絶滅の危機に瀕しています。サメとエイの未来は（そして私たちの海の惑星の健康は）漁業と取引を抑制し、また、生育地、交配地、餌場などの重要な生息地を保護することにかかっています。

この脅威に行動で対処するために、Project AWAREは、保護組織の世界的連合である「サメ同盟 (Shark League)」(sharkleague.org) の会員になり、基幹プログラムである「健康な海」プログラムの下で、有意義なサメとエイの保存対策と保護を保証する力となる機会に焦点を合わせて活動しています。

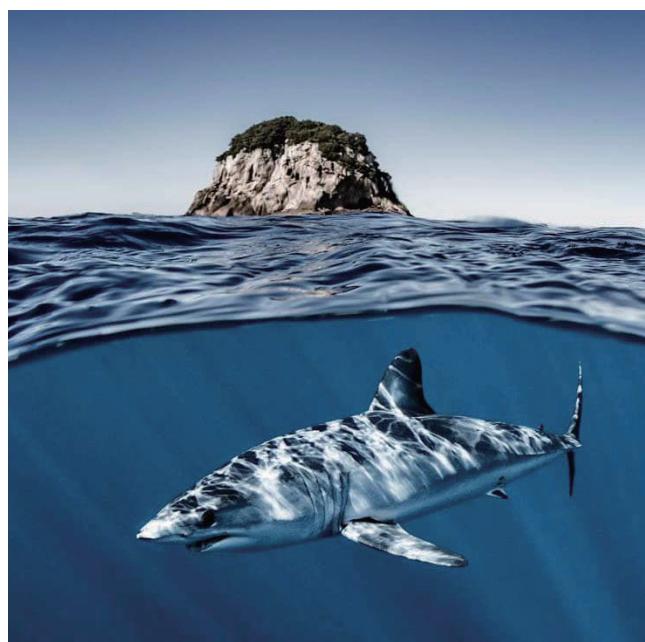
## #MakeorBreak4Makos (アオザメの運命を左右する)

**Project AWAREと、我が「サメ同盟 (Shark League)」のパートナーたちは、何年にもわたって、アオザメに対する漁獲圧力を減らすよう運動してきました。**

**これは、私たちの #Divers4Makos (アオザメの味方のダイバー) 請願に署名した29,500人を超える人たちの応援に支えられています。**

乱獲はサメとエイにとって第一の脅威ですから、規制のないアオザメ漁を終わらせようという私たちの不断の努力が続いています。本年、私たちは引き続き我が「サメ同盟」のパートナーたち、それに科学者や政府の職員、最も重要なことに、私たちのサポートーたちと積極的に協力してきました。

2020年を通じて、Project AWAREは、世界的に緊急を要するサメ保護危機のひとつ、すなわち、大西洋アオザメの危険な減少に取り組むために大西洋の漁獲国からの支援を促し追跡しました。私たちは、上位の漁業国に「大西洋マグロ類保存国際委員会 (ICCAT)」の漁業科学者による勧告に従って、この絶滅寸前の種の保有を禁止するよう強く訴え、引き続き大西洋全域での禁止を強く主張しました。さらに私たちは、ICCATの交渉に向けて、大西洋アオザメを保護するのを支援するために、世界的コミュニティに対してソーシャルメディアで自分の声を発信するよう要請しました。



元々傷つきやすく、生態的に極めて重要で、経済的価値が高い大西洋アオザメはICUN（国際自然保護連合）のレッドリストで「絶滅危惧種」に分類されていて、アオザメの取引は、「絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（CITES）」で制限されています。こうした極めて移住性の高いサメは多くの国々で肉やヒレ、レジャーで漁獲されていて、国際的な捕獲制限が喫緊に必要とされます。

Project AWAREと「サメ同盟」パートナーたちは、カナダ政府とセネガル政府が、科学的根拠に基づき、大西洋漁業での絶滅危惧種の大西洋アオザメ保有をすべて停止するよう提案する決定をしたことを祝いました。この行動で、カナダとセネガルは、科学者たちが勧告した科学的根拠に基づく制限を制定するイニシアティブをとり、両国をイギリス、エジプト、パナマ、日本、中国などの国々が支持しました。

残念ながら、ヨーロッパ連合と合衆国は（長い間、科学的根拠に基づくサメの保護を促進してきたにもかかわらず）2020年のICCAT交渉で緊急を要するアオザメ保護を阻む大きな障害に再びなってしまいました。それは、事実上、パンデミックの影響で生じたものです。委員会の議長は、大西洋全域の決定の次の機会として、別の会合を2021年6月に行なうことを提案しました。Project AWAREと「サメ同盟」は、ICCATアオザメ交渉の次の回は最終的にアオザメとその生態系が極めて緊急に必要な保護を確実に実現できるよう真剣に取り組んでいます。

“合衆国が世界的なサメ保護のリーダーから、国際的な科学的根拠のある絶滅危惧種のアオザメ保護の大きな障害になるのを見て、とてもがっかりしました。何万人ものアメリカのダイバーに代わって、私たちは、合衆国が、特に、サメのようにことのほか傷つきやすく代わるものない海洋生物に関して、もういちど科学と予防的なやり方をしっかりと推進するよう、新たなバイデン・ハリス政権に強く求め続けるでしょう。”

- イアン・キャンベル (Ian Campbell)  
Project AWARE 政策・キャンペーン、  
アソシエート・ディレクター

**What will your country do to support urgent science-based ICCAT limits for Makos?**

あなたの国は、緊急を要する科学的根拠のあるアオザメのICCT制限を支援するのに何をするでしょうか。

(アオザメの運命を左右する)  
**#MakeorBreak4Makos**  
**#ICCAT2020**



# インパクト・ ストーリー： 健康な海への コミュニティ行動

## フロリダキーウミガメ救出と ごみトレッキング

8月に、Key Divesは、ウミガメ救出とごみトレッキングをこれまで初めて同じ日に実施しました。丸一日のイベントで、熱心なダイバーのグループがまず500ポンド以上の海洋ごみを集め、その後、ウミガメの解放が続きました。何週間か前、「ウミガメ病院 (Turtle Hospital)」とパートナーシップを組み、Key Divesのクルーは、まだ小さい、ほとんど生氣をなくしているアオウミガメ（推定約7歳）を救出しました。病院のスタッフがウミガメの腸の問題を解決することができて、カメはリーフの家に戻れるようになりました。Key Divesのクルーと「カメ病院」スタッフは、このチビウミガメを、最初に救助したリーフに放すことができてとても嬉しく思いました。ほんとうに素晴らしいイベントでした！



クレジット: Key Dives Cleanup

## クジラ保護 ディスティングティブ・スペシャルティ

6月に、Dive Ninjas Expeditionsは、PADI クジラ保護ディスティングティブ・スペシャルティ・コースを開始しました。自然保護活動家で Dive Ninja の設立者であるジャイ・クルーのおかげで、ダイバーもダイバーでない人もこれからはクジラの生物学や世界的にクジラが直面している脅威、自然保護を行なう際の戦略、それにこの海の巨人を保護するのを手助けする方法を学ぶことができます。海洋哺乳類の専門家であるマリオ・A・エスカレラ (Mario A Escalera) と海洋科学者で科学の発信者であるマリア・ラウラ・マルシアス (Maria Laura Marcias) の手助けと支援を得て、このコースは熱心なホエール・ウォッチャーを強力なクジラの保護者にするように企画されました。

このコースを修了した人は、特別版の「PADI クジラ保護スペシャルティ」認定カードを受け取りました。また、Project AWARE のミッションの基金の援助として、彼らに敬意を表して、寄付がなされました。



# AWARE WEEK 2020

世界中のダイバーたちが 2020年の9月19日～27日まで、aware week 2020を祝して、力を合わせて海の健康を守りました。3年目の一週間にわたるイベントは本年、新しい形をとりました。ダイバーやダイビング・リーダーたちは、自分のコミュニティで、また、できる人は水の中で、オンラインで参加しました。私たちは胸を張ってその結果を共有し、世界中で aware week の行動がプラスの影響を与えたことを讃えたいと思います。



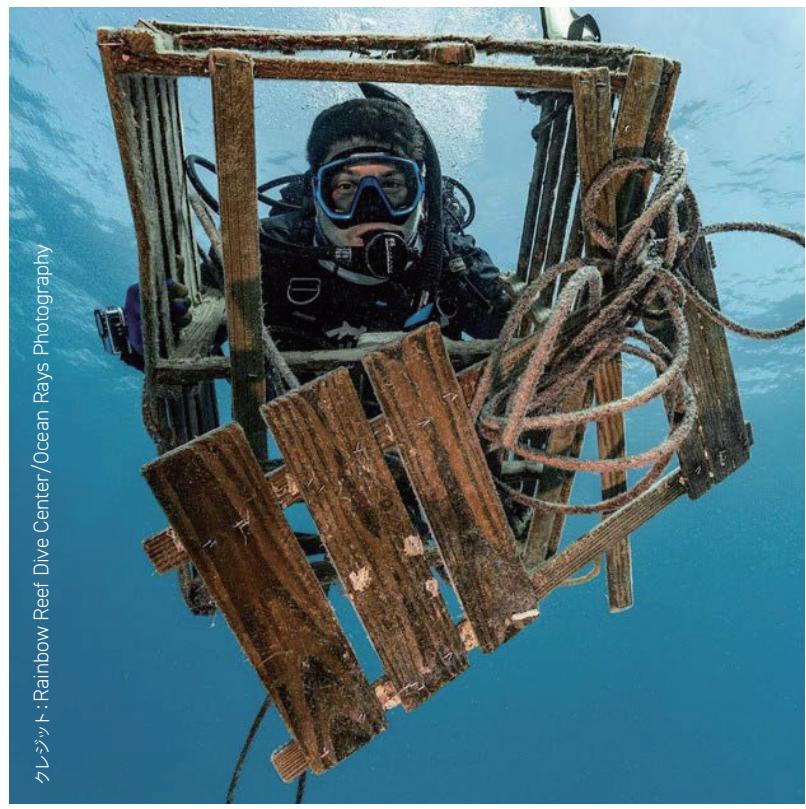
クレジット: Blue Corner Dive/Tamatind Divers



クレジット: Yasser Hejazy



クレジット: Aqua Marine Diving, Bali



クレジット: Rainbow Reef Dive Center/Ocean Rays Photography

クレジット: Hayley Jo Carr



# AWARE Week のインパクトと参加者

## 80件以上の登録保護活動



### フィンを履いて（水中）

きれいで健康な海を目指して  
波の下で市民科学行動を  
取ることから…



### フィンを脱いで（陸上）

海洋について学び、  
プラスチック汚染についての  
認識を高めることまで。

## 数字で見るDIVE AGAINST DEBRISRとAWARE Week のインパクト

**20,306**

ごみの数  
あと少しで  
**#NextMillion2020**

**12.5k**  
2011年以降  
の調査

**1.7 MILLION**

2011年以降、回収し、  
報告されたごみの数

パートナーや世界の  
コミュニティの皆様、  
ありがとうございます！

## 2020年のAWARE Weekと 9月のインパクトと参加者



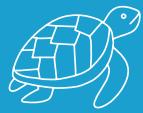
**247**  
調査数



**1,680**  
ボランティア数



**32,542**  
ごみ品目



**17**  
絡まった動物

AWARE Weekと2020年9月のDive Against Debris®の結果

### 報告のあった国々のトップ3

45ヶ国がAWARE Week 2020に参加しました



**USA**  
調査の18%



**UK(イギリス)  
およびカナダ**  
調査の6.7%



**スペインおよび  
オランダ領  
アンティル**  
調査の5.8%

クレジット : Ocean Rays Photography



ダイブ数を単に数えるのではなく、  
ダイビングを意味あるものにしましょう。  
毎週を AWARE Week のように  
過ごしましょう！



# OUR SUPPORTERS

サポーターの皆様

海洋保護は、規模の大小は問わず、私たちの行動すべてに左右されます。今、これまで以上に、個々の人たちが自分の地域の行動こそが私たちの惑星にプラスのインパクトを与えることができ、実際にインパクトを与えていると気がついています。私たちが自然保護のために一緒に集まれば、大きな変化を創り出すことができます。今年、私たちのコミュニティは、特に、新型コロナウイルスの感染流行のことを考えれば、私たちにとって素晴らしい財政的パートナーでした。

## 2020 限定版PADIカード

PADI®の舞い上がるリーフマンタ限定版認定カードは、一年を通じてProject AWAREの仕事を支援してくれました。このカードの素晴らしい写真は、フランスの写真家Gabriel Barathieu の手によるもので、この堂々たる高度に知的な生物の平和な水中世界を垣間見ることができます。しかし、ご承知のように、海洋とそこに住むすべての海洋生物はものすごい脅威に直面しているのです。

この限定版の認定カードから頂いた基金は、Project AWAREが、海洋汚染と乱獲も含めて、海洋の最も顕著な危険に取り組む行動を起こす助けになっています。Gabriel Barathieuは、モザンビークからマダガスカルの間のインド洋にある、マヨットラグーンでこの舞い上がるマンタの写真を撮りました。これは、2018年に、あの有名な「最高自然写真賞(Nature's Best Photography Award)」の受賞作品となつたものです。

“マヨットのラグーンで、エイが私に向かってきて闘っているように砂を押しているのを見ました。見逃せない瞬間でした。水底まで降りて座り込み、この巨人の方を向き、身動きしませんでした。それは私のすぐ上を通り過ぎ、まるで飛行機が離陸するようでした。すごかった！”

- Gabriel Barathieu  
写真家



## 資金調達者たち (換算は1 \$ 148.75円)

Project AWAREの資金調達に関しては、公式のようなものはありません。可能性は海のように広大です。サメの格好でダンスをする人がいて、ソーシャルメディアに夢中な人もいます。また、スクーバのフル装備でマラソンに挑む人もいます。

2020年に、215名の資金調達者たちが調達してくれたのは全部で、\$117,000(約1,740万円)以上です。



### マラソン

2020年の資金調達の見通しは明るいように思えます。というのも、Project AWARE史上最大のマラソンチームが結成されたからです。37人の熱心なランナーがシカゴでのマラソンに固い決意で参加し、7人のランナーはニューヨークでのマラソンで海洋を守るために基金を集めようと決めたのです。2020年のイベントは中止になりましたが、チームは2020年に\$22,600(約336万円)以上を集めることができました。

### リズ・パーキンソン

リズ・パーキンソンは、Project AWAREマラソンチームのキャプテンとしてチームを引っ張り、わずかに1ヶ月しか離れていない二つのマラソンを続けて走りました！彼女は202年からProject AWAREのニューヨークシティマラソンチームに加わっていて、その献身と持久力で本当に私たちを驚嘆させました。

リズはニューヨークシティマラソンを7回走った記録を持ち、シカゴシティマラソンは連続5年走っていて、海洋保護の意義の認識を高め、\$20,000(約297万円)以上の基金を集めました。

気持ちを引き立てる、彼女の話はここで終わりではありません。リズは積極的にランナーをチームに勧誘し、仲良しの友人と家族を加わるように呼び集め、さらに多くの基金を集めるのを助けています！



Photo: David M. Benz (c)

“海を救うのに、海に住んだり海で働いたりする必要はありません。Project AWAREの#TeamOcean(チームオーシャン)は、マラソンや募金活動を通じて、これまで海洋保護や教育、認識がどれほど重要なかを知る機会がなかった人たちと私たちがつながりを持つのに役立っています。海洋環境を助ける道はひとつではありません。そして、幸運にも、私はアウトドアを楽しみ、競争心を持ち、支援する情熱を持つ、すごく刺激になるグループの一員です。たとえそれが、時にはフィンを脱いで走りに行くことであっても！”

- リズ・パーキンソン (Liz Parkinson)  
Project AWARE資金調達者

## ペイコムの従業員が すごいことをしています

ペイコムソフトウェア社は、包括的な、クラウドベースの人的資本管理ソフトウェアのプロバイダーですが、サメとエイの保護や海洋ごみの解決策、海洋保護のために、Project AWAREに\$16,500 (約245万円) 以上の寄付をしてくれました。

この寄付はペイコムの継続中の贈与キャンペーンの一環で、従業員はさまざまな地域や全国の運動に寄付する機会を与えられています。テレビで最も人気のある週間のひとつである、「サメ週間」に合わせて、ペイコム社はフィッシング教育を強化し、2020年にProject AWAREのための寄付を集めるために全社的にフィッシング・シミュレーション・チャレンジを主催しました。



## '誕生週'を祝って 基金を集める

PADI認定のレスキュー・ダイバーとして、Soonho（ソーンホ）は自分の誕生日を、Project AWAREを支援するのに寄付するのは意味があると感じていましたが、24時間というのは海洋保護に関しては十分ではないと思って、自分の基金調達キャンペーンをさらに'誕生週'全部で祝おうと決めました。

Soonhoの誕生週のお祝いは、2020年の6月1日に始まりました。そこで彼は彼の仲間に誕生週の基金調達のことを説明し、彼の自然保護への情熱を共有しました。それから、最後の誕生日のお祝いの日まで毎日、彼は海洋保護問題とProject AWAREの活動に対する意識を高めるためにインスタグラムの投稿を作成しました。彼が基金調達キャンペーンを行なう間ずっと、テーマには、海洋でのサメの重要性、海洋汚染、ごみ、リーフが安全な日焼け止め、スクーバ・ダイビングを通じて海に恋した個人的な話、海洋を保護するダイバーたち、「世界海洋デー (World Oceans Day)」、そしてもちろん、Project AWAREへの寄付がどれほど役に立つかなどがありました。

Project AWAREは、この思慮に富んだ創造的な海洋への祝典に感謝し、また、感動しています。Soonhoが私たちの海を守るのに\$1,250 (18万5千円) の基金を集めてくれたことをお祝いすると共に、尽きせぬ感謝の意を表します！



## 海のための ダンス

Twitch や YouTube のライブ配信を通じて、コミュニティ・メンバーの Katie Sikel は、2020 年に \$1,150 (約 17 万円) 以上の基金を Project AWARE のために集めました。1 年を通じて、Katie は、いくつかのとてもクリエイティブな方法で基金を集めました。サメのコスチュームで踊ったり、スプーン 1 杯のホットソースを食べたりしてです！

熱心な海洋擁護者として、Katie は海洋保護について話し、インターネット上でおもしろくて奇妙な刺激を誘うやり方で基金を集めています。彼女は「世界海洋デー」を祝って、6 月にオンラインで基金調達さえ行ないました。Katie のビデオを彼女の Twitch チャンネル (mermaidmarine) と YouTube チャンネル (KtMarine) で見つけて、2020 年に彼女が海洋保護を支援した驚くべきやり方を全部見てください。



#Fundraiser #ProjectAWARE #JustDance  
You Better Work, Shark | Work Work | Britney Spears | Just Dance Unlimited

## 2020 基金調達者たち（換算は1\$ 148.75円）

### \$10K+（約1千487万円）

• Paycom

### \$1,000 - \$4999（約14万8千円～74万3千円）

• Anthony Chang  
• Anthony Velardocchia  
• Chuanji Chen  
• Erie Water Treatment  
• Holly Holden  
• Jojo  
• Katie Simpson  
• LadyKhaotic  
• Luke & Jen Wolkers  
• naraviatv  
• Robyn Lindsay  
• San Marcos High School  
• Soonho Kwon  
• Sydney Kurtz  
• The Fifth Point  
• Tracy Durbin  
• Vanessa DeShambo

### \$500 - 999（約7万4千円～14万8千円）

• Anya Pavlyshak  
• Batavia Coast Dive  
• Carey Christie  
• Emily Cass  
• Josh Liebman  
• Katie Torigoe  
• Kim Stephenson  
• Laro\_V  
• Lazaro Zayas  
• Mark McGovern  
• Paul Yoon  
• Raj Desai  
• Rhody Beach Promise  
• Rick Harkins  
• Rob Mackean  
• Save the Wave  
• Wakeheart LLC

### \$250 - 499（約3万7千円～7万4千円）

• Alexander Kohls  
• Alexandra Farrar  
• Alison Dygert  
• Alli Towers  
• Andrea Cr

• Antoni Velardocchia  
• Ashley Briody  
• Colin Macgillivray  
• Craig McGuire  
• Curtis Snaper  
• Dan Yunez  
• Derek Doa  
• Elliot Peters  
• Gin Ng  
• Hannah Anderson  
• Jill Smith  
• Jodie Craighill Karigaca  
• Katherine Bilcliffe  
• Kees Edelman  
• Kelsi  
• Kyle Moorcroft  
• Liz Parkinson  
• Mike Parker  
• Nicola Leske  
• Pernilla Ekstram  
• Robert Hopenhajm  
• Ron Woodle  
• Santa Winefordner  
• Sapan Parekh  
• Scuba Mark  
• skyetheshark  
• SPOKO Divers  
• Tara Kapeles  
• Young-joon Milo Lee

### \$1 - 249（約148円～3万7千円）

• Abbey Townsend  
• Adrienn Haja  
• Aleesandra Albrecht  
• Alex Skegg  
• Alexa Perez  
• Alexandra Curtis  
• Alexis Lawrence  
• Amy Forstner  
• Andi Blenz  
• Anne-Sophie Chevalier  
• APLPlayzTTV  
• Aqua Dive & Watersports  
• ASD Pro Diving  
• Bethany Valentine  
• Brendan MacGregor  
• Brian Childs

• Brittany Costello  
• Bryce Sondag  
• Cara Geer  
• Carolyn Corley  
• Catarina Wagstaff  
• Chelsea Fogarty Followell  
• Cherokee Earnhardt  
• Cheyanne White  
• Chris Col  
• Christa Tsitirides  
• Chuck Tucker  
• Ciara Kirby-Hancock  
• Cierrah Anson  
• Constantinos Fo  
• Corey Peoples  
• Cory Giovanella  
• Cynthia Nico Barbuto  
• Daniel Porter  
• Danny Hecht  
• Dawn Brant Elliott  
• Dean Wade Vincent  
• Deb Musselman  
• Dominique Albert  
• DoobiousRex  
• Dylan Sutton  
• Edward Nester  
• Eleanor Richards  
• Eliza Hartford  
• Elliott Taylor  
• Emily Chandler  
• Emily Eberle  
• Ernst Mulder  
• Evan Boland  
• Gabby S Coonen  
• Georgina Robjant  
• Gordon Fava  
• Grace Jimenez  
• Gus Burneau  
• Gwen Deneen  
• Holly Stepney  
• hot\_girlplays\_withu  
• India Agar  
• James Sinclair  
• Jan-Philipp Lauer  
• Jason Dunphy  
• Jay Devlin  
• Jeff Ferrell

## 2020 FUNDRAISERS (基金調達者)

- Jen Mills
- Jesse Blackard
- J-Franacois 'Jef' de Sade
- Jill Krygowski
- Jim Sullivan
- Jo Watkins
- Joan Rodriguez
- Joanna Andrews
- Joey Curtis
- John Kenton
- Josee Frere
- Jourdane Iversen
- Juan Rivera
- Juanita Seino
- Kaelin Nicole Sauers
- Katie Broadley
- Katlyn Mulka
- kazuo93
- Keely Volkes
- Kelsi Paige
- Kerry Worth
- Korali Kevallos Luna
- Kristin Thompson
- Kristy Benard
- Lauren Wiskerson
- Lia Benedek Kaufman
- Lily MacDonald
- Lizzi Wilkerson
- Loh-ra Rohs
- Loretta Lush
- Make Waves Clothing Company
- Mandy Kay
- Margot Ciccarelli
- Matthew Thompson
- Meagan Duncan
- Megan Accaus
- Melanie Hitschler
- Michaela Hammer
- Michelle Shayne
- Mike Moore
- Monica Govender
- Montana State University Foundation
- Natascha Bruhin
- Nathalia Ricardo
- Nathalie Edler Bay
- Nicole Boley
- Nishino Kaede
- Paul O'Connell
- Prefects at Marlborough College
- Rob van den Homberg
- Russell Foster
- Sam Ellis
- Sammy Toms
- Sergio Castaneda
- Shirley Rogers
- Silvio Cerruti
- Skye Harry
- Sona Klein
- Sophie Lloyd
- Sophie Allen
- Stellar Divers
- Steph Seefeldt
- Stephanie Lorraine
- Stephanie Rasnis
- Steve Kathrein
- Stormy Winters
- Sumi Thaker
- Surendra Varma
- Sven Ivar Hunstad Tveter
- Tasja Vd Merwe
- The Fifth Point Diving Centre
- Tina Wessollek
- TJ Bittleston
- Tom Freret
- Tomoo Matsuno
- Vanessa Cedeno
- Verena Ehlers
- Wildlife Collections LLC
- x\_saphierra\_x
- Yanto Jones
- Yasmine Edney

# 100% AWARE パートナー

世界中で、スクーバ・インストラクターとダイブセンター／リゾートは、100% AWAREパートナーシップを通じて海洋保護に献身してきました。

生徒ダイバーひとりひとりに代わってProject AWAREへ寄付することで、こうしたパートナーたちによる寄付が継続して、健康で豊かな海をサポートするのに欠かせない基金が生み出されます。



In 2020, 540の100% AWAREパートナーは  
合計 **\$44,500**  
(約660万円、148.75 円/\$)  
以上の基金を集めました

## 100% AWARE パートナー - BLUE VENTURES

Blue Venturesは、海洋自然保護団体で海洋の生物多様性を守り、海岸域のコミュニティと一緒に熱帯の漁場を再建することに献身している組織ですが、2020年に光栄にも100% AWAREパートナーになりました。100% AWAREパートナーとして、Blue Venturesは、きれいで健康的な海を支援する世界的な海洋スチュワード部隊に加わりました。この新しいパートナーシップは、Blue VenturesがBlue Ventures探検旅行でダイビングを学ぶひとりひとりのボランティアに代わって寄付することになるということです。このパートナーシップを前進させるために、Blue Venturesはまた私たちの基幹たる市民科学のDive Against Debrisを彼らの遠征地の全域、すなわち、マダガスカル、ベリーズ、それに東チモールで責任を持って実施するということです。

100% AWAREパートナーになる最初のNGOとして、私たちはBlue Venturesをパートナーシップ・プログラムに迎え入れることができてとても興奮しています。一緒になって、私たちは100% AWAREをまったく新しいレベルに高めています。海洋自然保護の実践的な取り組みを共有して、私たちは世界的な海洋保護活動に必須の基金を調達するだけではなく、水中市民科学活動のパワーを地盤として、人々と私たちの青い地球のために政策転換するようてこ入れています。

Blue Venturesが100% AWAREプログラムに取り組んでくれるということは、経験の一部としてダイビング学び、そのスクーバ・ダイビングの冒険を世界の海洋保護に役立つようにすることが大事だということを彼らの遠征ボランティアたちに示しています。”

- ダナ・ムーア (Danna Moore)  
Project AWAREグローバルオペレーション・ディレクター



# オール100% AWARE パートナー

- 20,000 Leagues Scuba and Aquatics
- Abyss Ocean World
- Academy of Scuba
- Acqua Life Dive Center
- Adam Burzynski
- Adam Wucherpfenning
- Adrian 'Bev' Bebbington
- Aegean Seals Diving Center
- Ahmed Fouad
- Alaa Saeed Al Masri
- Alberta Adventure Divers
- Alejandro Pescador
- Alexander Kohls
- Alexey Kozin
- Alfa Diving Center
- Algan Ergene
- Ali Aldarbi
- All4Diving Indonesia
- Aloha Scuba
- Alpha Divers Kuwait
- Al-Razel Lagarde
- Amarilla Divers
- Amr Zakaria Ali
- Amy Slate's Amoray Dive Resort
- Andre Brasseler
- Andreas Brustmann
- Andrew Kikawa
- Andy Stewart
- Angel Rijos
- Ann Speer
- Anna Axelsson
- Anse Chastanet Scuba St Lucia
- Anthias
- Anthias Divers
- Anthony Morton
- Anthony's Key Resort
- Antonino 'Nino' Calamia
- Aqua Plein Air, Inc
- Aqua Safaris
- Aquaexcursions Diving Centers - UTW Palladium
- AquaMarine Diving - Bali
- Aquamarine.MT Diving Centre
- Aquatic Adventures - Rowville
- Aquatic Adventures of Michigan
- Aquatic Center of Rochester
- Archimède
- Armando Mesen Molina
- Art Fallon
- Asia Dive Academy
- Asian - Belgian Dive Resort
- Atlantis Diving
- Australian Diving Instruction Geelong
- Aviva Dive & Travel
- B&J Diving Centre
- B&J Diving Centre
- Bahia Apartments & Diving
- Bali Hai Diving Adventures
- Ban's Diving Resort
- Barbados Blue Water
- Barefoot Divers
- Barefoot Scuba
- Barrett S. Jackson
- Bart den Ouden
- Bart van den Bos
- BASE Diving Centre
- Beach Cities Scuba
- Ben Arthur
- Beqa Adventure Divers
- Bernd Albert
- Best Spot Azores
- Bethan Comley
- Big Blu Mafia Island DC
- Big Blue (NY)
- Big Blue (Vanuatu)
- Black Beard Sports
- Blue Corner Dive
- Blue Corner Dive Peneida
- Blue Marlin Komodo
- Blue Ocean Club
- Blue Planet
- Blue Submarine
- BLUE SUBMARINE by NAVY SEALS ASD
- BLUE SUBMARINE by SCUBA WORLD ASD
- Blue Ventures
- Blue Water Divers
- Blue World Diver e.V.
- Bocas Dive Center
- Boonchob Vijarnsorn
- Bradley Copeland
- Brave Diver
- Brian Ferguson
- Brisbane Dive Academy
- Bruce Hall
- Bruce McPherson
- Bruce Weitzenhoffer
- BUBBLES Dive Centre
- Buceo Marina
- Buddies Dive Cove
- Cai Miao
- Caleb Hayes
- Calypso Divers
- Captain Cook Cruises Fiji
- Carl Teare
- Catherine Glashier
- Ceningan Divers
- Centro Buceo Pedreña
- Centro de Buceo Pichidangui
- CEYLON WATER SPORTS (PVT) LD Nilaveli Diving Centre/ Unawatuna Diving Centre
- Charlene Bartlett
- Charles Bosma
- Charles Russell
- Charly Sub Diving School
- Chris Hartman
- Chris Hulett
- Christian St. Pierre
- Christian Tamayo-Villagran
- Christopher Adams
- Christopher Cirillo
- Christopher Southall
- Christopher Willey
- CJ's Reef Shack
- Claudio Baccinelli
- Claus Poehler
- Club Subaquatique de Vernier
- Cojo Diving
- Constantin "Costa" Benedic
- Corey Roulet
- Covenas Diving Co.
- Crystal Dive Resort
- Crystal River Watersports
- Curt Shumate
- Curtis Snaper
- Cyprus Underwater Explorers Ltd
- Dane Durand
- Daniel Anton Perez
- Daniel Chan
- Daniele Comin
- Danilo Bellesse
- Darco Azarmaneche
- Darrell Bird

- Darwin Bawasanta
- Dave Rowbottom
- David Du
- David Gnadt
- David Groth
- David Keene
- David Rintoul
- David Speer
- Debora Roosli
- Deep Blue Divers
- Deep Blue Fiji
- Denzel Summer
- Derek Freres
- Diamond Diving
- Didier Duprat
- Dirk de Does
- Discovery Divers
- Dive Boutique Cozumel
- Dive Friends Bonaire
- Dive Georgia, LLC
- Dive Ninja Expeditions
- Dive Paradis
- Dive Point Red Sea
- Dive Potato
- Dive Rutland
- Dive Shack
- Dive World Inc
- Dive! Tutukaka
- Divecenter Scubido
- Diver City SCUBA
- Divers Den
- Divers Incorporated
- Divers Incorporated Monroe
- Divevolution
- Divewise
- Divine Diving
- Diving Academy Scubacqua
- Diving Bee Marine House
- Diving King Corporation
- Dominic Black
- Dominic Diodato
- Dominik Mikolajczyk
- Donald Pollitt
- Dos Tiburones Dive Shop
- Douglas Honorio
- Down Under Dive Shop
- Dragoman Dive Center
- Duikcentrum Loosdrecht
- Dykcentrum Gullmarsfjorden
- Eaglehawk Dive Centre
- East Coast Scuba & Watersports
- Eat Sleep and Dive
- Eco Dive
- Eddiving
- Edward Anger
- Edward H Chan
- Efthymios Gkantis
- Eric Webster
- Evan C. Long
- Evolution 2
- Explore Hamilton Island
- Fabrizio Angeloro
- Fantasea Diving
- Fenix Buceo
- First Buddy Tablas
- Float N' Flag Sport & Dive Inc
- Florida Sea Base
- Florida Underwater Sports
- Fouad Al Hakami
- Four Seasons Kuda Huraa
- Four Seasons Landaa Giraavaru
- Frank Baquero
- Frank Lafleur
- Frank Van Klaveren
- Fu Chun
- Fun Dive Club
- Gangga Divers Bali
- Garden Island Resort
- Gary Phillips
- Gary Sanderson, Jr.
- Gasper Otorepec
- Gatwick Scuba
- Geoffrey Creighton
- Geoffrey Skeats
- Glyn Jenkins - DiveClub Northern Ireland
- Go2Similan
- Great Adventures Bonaire
- Gregory Molendyk
- Gregory Sparkman
- Guillaume Lacome
- Gustavo Suarez
- Gwennaël Perrin
- Hans-Joachim Meyer
- Hassan Khayal
- Helena Scuba
- Hervey Bay Dive Centre
- Hirokazu Tatebe
- Hi-Tide Divers
- Hsun-Wei Huang
- Hussain Ahmed Al-Abbas
- Hyeonsu Pyo
- Ian Edge
- Ian Riley
- Ignacio V. Lembeye
- IK Diving
- Ilaria Laterza
- Imad Khashfeh
- Indus Scuba
- Infinity2diving
- Iron Sub
- Ismael Samooh
- Ismael Schlack
- Issam Kanafani
- Ivan Chin Hing Foong
- Jack's Diving Locker
- Jacob Childs
- James Chandler
- James Maroney
- James McKay
- Jan Sturre (Delta Phi Diving)
- Jason R. Keeffer/Kona Honu Divers
- Jason Sikat
- Jay Brewer
- Jay Elson
- Jean Michel Cousteau's Caribbean
- Jennifer Cumming
- Jenny Hillman
- Jetty Dive Centre
- Jill Heinerth
- John Brett
- John G. Gransbury
- Jomtien Dive Center
- Jon A. Rusho
- Jon Doughty
- Jon Jon Suarez
- Jonas Dahringer
- Jordan L. McGonigle
- Jose David "Balky" Balcazar Melgar
- Jose Luis Saenz
- Josep Lluis Massuet Casals
- Joshua Cohen
- Joshua V. Dykman
- JR Dive
- Julien van Loenen
- Justin Newton
- Kai Lin Liew
- Kai Steinbeck
- Kappi Divers
- Karina Sprechler Petersen
- Karma Dives
- Kelvin L. Dale
- Kenneth Johnson
- Key Dives
- Kholousi Khayal
- Kirill Popov
- Kohala Divers
- Kosrae Village Ecolodge
- Kristina Soderquist

# オール100% AWARE パートナー

- Kuwait Diving Team / Science Club
- Lahaina Divers
- Lanzarote Non Stop Divers
- L'Aquila DC
- Latitud Scuba
- Laura Lomazzi
- Leobardo Morales Cervantes
- Li Zhu
- Liang Chen
- Liquid Dive Adventures
- Liquid Dive Dumaguete
- Lisa D. Krygsveld
- Live & Let Dive
- Lloyd Jones
- Lofoten Diving
- London Diving Centre
- London Scuba Centre
- Louise Kraechter
- Lucja Rice
- Luke Ashford-Hodges
- Made in Blue
- Mahdi Andijani
- MaiDiving
- Marco Giovannini
- Marco Lusa
- Mark Mack
- Mark McNamara
- Mark Wolff
- Marlin Divers Pte. Ltd
- Marlon Espina
- Mars Scuba
- Martin Green - at Pure Dive
- Martin L. Kelly
- Matava - Fiji's Premier Eco Resort
- Matt Clements
- Matt Dempsey
- Maui Dreams Dive Co.
- Maui-Diving
- Mauro Sacchi
- Max Gallino
- Mega Diving B.V. (Mega Divers)
- Michael C Hayes
- Michael Hughes
- Michael Hughes
- Michele Cavati
- Micronesia Divers Assoc
- Micronesia Eco Divers
- Min Hyeok Kim
- Moh Boon Leng
- Mohamad H Buhamadi
- Monther Jamal
- Muhamad Bin Abdullah
- Mu-Han Chang
- Nautilus Dive Center
- Nemo Viva
- Neren Diving Komodo
- Nicolas Laatsch
- Noel Hansen (The Dive Place)
- Nuno Veloso Azevedo
- OBI BLU
- Oca Divers
- Ocean Planet Diving Center
- Ocean Pro Divers
- Oceans Unlimited Costa Rica
- Ohana Dive Co.
- Oliver Payne
- Ollie Powell
- One&Only Reethi Rah Dive Centre
- Ozan Atabilen
- Pacific Freediving
- Palau Ocean Divers
- Paolo Cardani
- Paradise Divers
- Paradise Divers
- Parker Johnson
- Pascal van der Lei
- Passions of Paradise
- Patrick Scott
- Patriot Dive Center
- Patriot Scuba
- Paul Hummel (Southwestern Oklahoma SCUBA Club)
- Penny Nelsen
- Perth Scuba
- Peter Bickerton
- Petreos Divers
- Pierre Brits
- Pilbara Dive Tours
- Pissouri Bay Divers
- Planet Ocean
- Planet Scuba India
- Plataran Dive
- Po Hsiung Huang
- pp02 Mergulhos
- Pura Vida Divers
- Pure Dive Resort
- Purple Dive Penida
- Qi Palawan
- Quintin Hill
- Rachel Watts
- Rafael Arocha Garcia
- Rainbow Reef Divers
- Rec2Tec Diving
- Red Alert Diving
- Reef Scuba Ltd
- Remco Van 't Hooft
- Renee Tapsell
- Restuning Sandini
- Rich Karren
- Rick Miramontez
- Roatan Dive Center
- Roatan Divers
- Roatan Divers Sandy Bay
- Robert Hodgkiss
- Robert M. McDowell
- Robert Soncini
- Robin Kendrick-Yates
- Rodrigo Pena Anza
- Roger Chan Ming Chau
- Ronald Boice
- Rupert Mayer
- Russell Hosp
- Ryan Anderson
- SA Scuba Shack
- Sabine Henkel
- Sacha Williamson
- Sail Caribbean Divers
- Sailing Club Divers
- Sairee Cottage Diving
- Sally Denton
- Sami Alhaj
- Saralyn Borg
- Sascha Engeler
- Scott G Taylor
- Scott Roberts
- Scott Tilley
- Scuba 6 Eco Diving
- Scuba Adventures - Pakistan
- Scuba Center Asia
- Scuba Courses
- Scuba Dive CRI
- Scuba Dream
- Scuba IQ
- Scuba Junkie
- Scuba Leeds

- Scuba Monkey
- Scuba Shack Diving Services
- Scuba Symphony
- Scubalino
- Scubatec
- Scubatude
- Sea 2 Sea Scuba
- Sea Divers
- Sea I see Dive Center
- Sea Sky Jeju
- Seals Diving Center
- Sean Flynn
- Seattle Dive Tours
- Seattle Scuba School
- Seong Hwan Yoo
- SGS Tauchen
- Shamaa Hadeem
- Shan Hai Jin Dive
- Shana Kent
- Shan-Chen Yu
- Shannon Montalvo
- Shaun Soenen
- Sheesa Beach Dive Centre
- Shellie Hernandez
- Shiu Ming Chan
- Side Azura
- Simon Lau
- Sin City SCUBA
- Southern Maryland Divers
- Stanislav Yurchenko
- Stellar Divers
- Stephen Lyon
- Stephen Watkinson
- Steve Mays
- Steven Brown
- Steven Jack Power
- Steven Schwankert
- Sub Aqua Tech
- Subnauta
- Sugar Land Dive Center
- Summer Dive Centre
- Sunchaser Scuba, Ltd
- Sweet Bottom Dive Center
- Tairua Dive & Marine
- Taiwan Dive Center
- Take's Skinscuba
- Tauch Aktiv
- Tech Dive Academy
- Terry Wilkins
- Thalassa Dive Resort
- The Dive Bus
- The Dive Shack
- The Dive Shop
- The Dive Spot @ Lytle Shores
- The Fifth Point Diving Centre
- The Maryland Scuba Center
- The Reef Marina
- The Ski & Scuba Connection
- Thomas Koch (Aqua Hands)
- Thomas Nielsen
- Three Diving Club
- Tim Ness
- Timothy Attis
- Timothy Ramseyer
- Timothy Riley
- Tinos DC - The Dive Center
- Tito Oliveras
- Tokoriki Diving
- Trevor Bowden
- Tri-City Scuba Centre
- Turismo Curu
- Tyler Hammel
- Ulf Jakobsson
- Unawatuna Diving Centre
- University of Malta Diving Resource Centre
- University of Malta Diving Resource Centre
- Utila Dive Center
- Utila Lodge
- Velaa Private Island Dive Center
- Viewpoint North Diving
- Villa College Maldives
- VIP Diving
- Viti Water Sports - Nadi
- Vivian Dive Centre
- Vivien Siaw Lee Jing
- Vladimir Akimov
- YSS Dive
- Waiheke Dive and Snorkel
- Waikawa Dive Centre
- Wavecrest Scuba
- Wenkai Yang
- West Side Scuba
- Whalesark Enterprise
- White Star Quarry
- Wilfred Bindervoet
- William Brown
- William Nash
- William Stevenson
- XTC Dive Center
- Xu Xin
- Yawen Fang
- Yvan Rouxel

# 団体 パートナー



## PADI®

Professional Association of Diving Instructors (PADI) は、世界最大のスクーバ・ダイビングの教育機関で、ダイバー教育を通じて環境への認識を高める新たな構想として1989年にProject AWAREを設立しました。今日、Project AWAREは、別の非営利団体で、自らの基金を集め、自らの使命と目標を持って運営されています。PADIは、Project AWAREを金銭ではない形のサービスでサポートしていく、私たちを世界中のダイバーとプロフェッショナルたちと結びつけてくれており、また、そのさまざまな場面を通して寄付を集める手助けをしてくれています。

## PADI Professional Members

世界中のPADIプロフェッショナル・メンバーたちとの私たちのパートナーシップは、世界的な保護活動とプログラムを動かすのに欠かせません。PADIのプロたちは、教え、指導し、地元の自然保護に深く関わっています。Project AWAREは、彼らのサポートがなければ私たちの目標や使命を達成することができないでしょう。

## PADI® Japan

[padi.co.jp](http://padi.co.jp)



**4Ocean**  
[4ocean.com](http://4ocean.com)



**Kraken Rum**  
[krakenrum.com](http://krakenrum.com)



**Luminox**  
[luminox.com](http://luminox.com)



**Bear Grylls  
Ventures**  
[beargrylls.com](http://beargrylls.com)



**Oceanographic**  
[oceanographicmagazine.com](http://oceanographicmagazine.com)

## LUMINOX & BEAR GRYLLS VENTURES

Luminox社は、オリジナルの自己発光システムの時計ブランドで、世界的なアウトドア・アドベンチャーの有名人、たとえば、Bear Grylls、U.S. Navy SEALs、The Icelandic Association for Search and Rescue (ICE-SAR)、Lockheed Martin's F-117 NighthawkTM ステルス、その他の戦闘機パイロットや世界のエリート部隊、それに、プロのダイバーを選択できる時計です。Luminoxの時計は、いかなる光の条件でも25年間光を発します。常に目に見えて、タフで、パワフルで、正確な、このスイス製のLuminoxは、壮健なアウトドア人間やその他の極限の精鋭たちのための究極の夜間仕様の装備です。

共通のスローガンである“決して諦めない”と一緒に登場した、Bear Grylls Ventures、Luminox、#tide それに Project AWAREは、その情熱と専門知識とを合わせて、世界的な海洋のプラスチック危機に関する認識を高め、かつ、プラスチックの浪費に対する循環経済的アプローチをすぐにでも行なう必要があることを強調しています。

この新しい時計は100%リサイクルの海洋由来プラスチックを使っているだけではなく、ひとつひとつの時計の売り上げが海洋自然保護の資金集めの支援にもなっています。販売された小売価格の一部は直接Project AWAREに寄付され、世界中のスクーバ・ダイバーや海洋冒険家たちが、市民科学活動を通して、海洋ごみの猛攻撃から水中環境を守るための力になっています。



## クラーケンラム (KRAKEN RUM)

伝説の怪物の名にちなんだクラーケンラムがProject AWAREとパートナーシップを結んだことで、ラム通とクラーケン・ブラックスパイクス・ラムのファンたちは、クラーケンの神話的な海の物語に身を浸すことができるだけでなく、海とその居住者たちがまさに直面している困難と脅威に連なることができるようになりました。

このようなパートナーシップは、コミュニティのサポートといううねりと共に、変化を作り出すのに必要な欠かせない二つの要素です。クラーケンラムは海洋生物のサポートしてきた豊かな歴史を持っていますので、私たちの海とその野生生物の苦境に対して資金を集め意識を高めるために力を合わせることができることを私たちには誇りに思っています。

クラーケン・ブラックスパイクス・ラムは、フリーダイバーのチャンピオンであるベシ・ライアン(Beci Ryan)とチームを組み、ライアンは水中に秘蔵されている秘密の場所からお客様のために、ダイビングして限定版のボトルを回収する任務を請け負いました。この秘密の蔵は、イギリス(連合王国)のチェプストーにある「全国潜水・活動センター(National Diving and Activity Centre : NDAC)」の水底にあります。新しい限定ボトルが1本売れる度に、AWAREに基金が寄付されることになります。



# 2020 寄付をしていただいた方々

この新型コロナウイルスの大流行で世界が直面した未曾有の困難にも係わらず、私たちが2020年に成し遂げたことを誇りに思いますし、海洋保護についての次の波が来ることを期待しています。私たちは、2021年以降もきれいで健康な海のために地域的、世界的なインパクトを達成するために責任を持って行動します。(換算は1\$148.75円)

## \$50,000+ (743万円~)

- PADI

## \$20,000 - \$49,999 (297万円~743万円)

- Luminox
- McBeth Foundationh
- Rumah Foundation
- The Estate of Kathleen Patricia Trasler

## \$10,000 - \$19,999 (148万円~297万円)

- Felsten Fishman Foundation
- Paycom

## \$5,000 - \$9,999 (74万3千円~14万8千円)

- 4ocean
- Clif Bar Family Foundation
- Mellam Family Foundation
- Strauss Family Foundation
- Wyatt Wisnosky

## \$1,000 - \$4,999 (14万8千円~74万3千円)

- Albert Vor Keller
- Brad Bishop
- Brian Anderson
- Carsten Beith
- Charles Garnsworthy
- Colina Foundation
- Daniel Roozen
- Dawn Carmichael
- Deupree Family Foundation
- Drew Richardson
- Erie Water Treatment
- Foundation for Sustainability and Innovation
- Franklin Philanthropic
- Henrik Nimb
- Himanshu Behl
- Ike Barbatoulis
- Jillian Greifenkamp
- John Platts

## • Kimberly Randal

- Lorraine Butzke
- Michelle Burnett
- Naomi Tucker
- Ocean Grants
- Philip Carroll
- Rachel Nakamura
- Rob Krzak
- Robert Treverton
- Samuel Jakob
- Scott Goldstein
- Shannon Bownds
- Soonho Kwon
- Stop&Stor
- Takimoto Yohei
- The Fifth Point Diving Centre
- The Schoon Family Fund
- Tisa Moore
- Wadycki Family Charitable Fund
- Wai Keung Hon
- Wall Family Foundation

## \$500 - \$999

- Albert Vandermerwe
- Alison Needham
- Amanda Shelly
- Anna Ingrid Leven
- Axel Azcue
- Berry Van Veldhoven
- Brian McLaughlin
- Caplin Foundation
- Carsten Beith
- Chris Riker
- Christine Naylor
- Daniel Kice
- David Shane
- David Stoll
- Effy Liu
- Erica Alvendia
- Fabien Darioli
- Findlay Park Partners LLP
- Garth Swanson
- Golden Age Spirits
- Hargroves Family Foundation
- Jack & Debra Knutzen
- James Schroeder
- James Taylor
- Jeffrey Hill
- Jenni Ward
- Jim Szczurek
- John Vanier
- Joseph Schmiedl
- Joshua Adams
- Julianne Pangal
- Kaitlin James
- Kelly Zanzarella
- Kevin Gould
- Kim Carpenter
- Laura Cooke
- Laurie Britten
- Linda Hartig
- Lori Oblinger
- Matthew Clark
- Paul Takats
- Sigrid Jacobsen
- Splash Water Sports, Inc.
- Susan Hill
- Suzanne Siteman Gift Fund
- The David & Catherine Loevner Family Fund
- The Jacobsens
- Todd King
- Trevor Lindars
- Tristan Coombes
- Yurie Namiki

# 寄付の方法

私たちは、毎日海洋汚染と闘っています。基金を集め、寄付をし、行動し、よく知つてから選択することで、あなたは、海を守る者たちの空前の世界的運動のパートナーになり、私たちの海の惑星に欠かせない保護を確実にすることができます。[あなたなしにはできません！](#)

## すぐに寄付する

現金での寄付は、オンラインでも、小切手、PayPal経由でも、すぐ簡単にできて、適用されるところでは税の控除が受けられます。

海洋に毎月寄付するのはすばらしい責任の行使です。毎月寄付者になれば、ますます増えている世界中の熱心なサポーター・グループに参加することになり、海洋野生動物にとって頼もしく不可欠の防衛線を提供することになります。

「ドナーアドバイズドファンド（DAF：助成先の分野を指定して、公益法人などに財産を基金として寄附する制度）」はお持ちですか。お持ちなら、この寄付用の制度を利用してProject AWAREをご支援くだされば幸いです。すでに税控除の寄付をなさっているなら、海洋の未来のためにご投資ください。

## 乗り物の寄付

合衆国内では、余剰になった車やトラック、ボート、RVなどをProject AWAREに寄附して税控除を受けることができる無料で便利なサービスがあります。オンラインで寄付することもできますし、877-999-8322まで電話して寄付の申し込みができます。

## 海洋保護のための資金調達

この目的のまわりに友人や家族を集めてください。今すぐ資金調達活動を始めましょう。身体を使ったチャレンジを設定し、自分の限界を拡大する、あるいは、誕生日をお祝いするのもよいでしょう。JustGivingやFacebookのような様々な人気のあるプラットフォームを使って、あなたの資金調達キャンペーンが最大になるようにしましょう。あなたの行動が私たちの海に大きなインパクトを与えることが出来ます。

## アマゾンスマイルを通して買い物をする

AmazonSmileを通して買い物をすると、とても簡単に買い物のたびにProject AWAREを支援することができ、費用はかかりません。まったく同じ品を同じ価格で購入すると、Amazonがボーナスとして購入価格に応じてProject AWAREに寄付してくれます（現時点では、合衆国と連合王国（イギリス）のみ）。

## 職場での寄付

Project AWAREの寄付は、職場を通じても簡単にできます。また、Project AWAREは、Benevity、Bright Funds、Good to Give、CAF、Combined Federal Campaign (CFC)などの多くのプログラムの対象になっています。職場での寄付を通じる場合で、特に事業主がProject AWAREに寄付することをマッチングギフトに指定している場合は、事業主にお尋ねください。通常、寄付を1対1かそれ以上の寄付をしてくれると思います！

## 贈呈・記念

友人の結婚、記念日や誕生日を私たちの海への寄付でたたえましょう。記念となる寄付で愛する人が成し遂げたことをお祝いするのは、意味がありますし、うれしい貢献になります。

## 遺贈する

Project AWAREを使って今後何年も海洋保護に投資できることをご存じですか。寄付と遺産の計画立案を通じて、自身の財政的目標を満たし、かつ、慈善事業の寄付を最大限に活用することが出来ます。担当の法的アドバイザーまたは財政的アドバイザーに直接連絡いただくか、あなたの遺産を海洋のために役立たせることをさらに知るために<https://projectaware.org/legacy>で考えて、私たちの「Legacy Society（遺産ソサエティ）」に参加してください。

## 有価証券

Project AWAREでは、一般に流通している有価証券も受け入れることができます。詳細については、[lauren.wiskerson@projectaware.org](mailto:lauren.wiskerson@projectaware.org)までご連絡ください。

# 理事会

## アメリカ

Dr. Drew Richardson 議長  
Kristin Valette 事務局長/財務  
Jenny Miller Garmendia  
Dr. Deborah Brosnan  
Jeff Nadler

## ヨーロッパ、中東、アフリカ

Mark Caney 議長  
Suzanne Smith 事務局長/財務  
Dr. Drew Richardson  
Kristin Valette

## アジア太平洋

Henrik Nimb 議長  
Matthew Hill 事務局長/財務  
Dr. Drew Richardson  
Kristin Valette  
Jenny Miller Garmendia

# Project AWAREスタッフ\*

ディレクター、グローバルオペレーション  
**Danna Moore**

アソシエート・ディレクター  
政策・キャンペーン  
**Ian Campbell**

グローバルデベロップメントマネージャー  
**Lauren Wiskerson, CFRE**

オペレーションマネージャー  
**Kian Clineff**

コミュニティコンサベーションオフィサー  
**Jack Fishman**

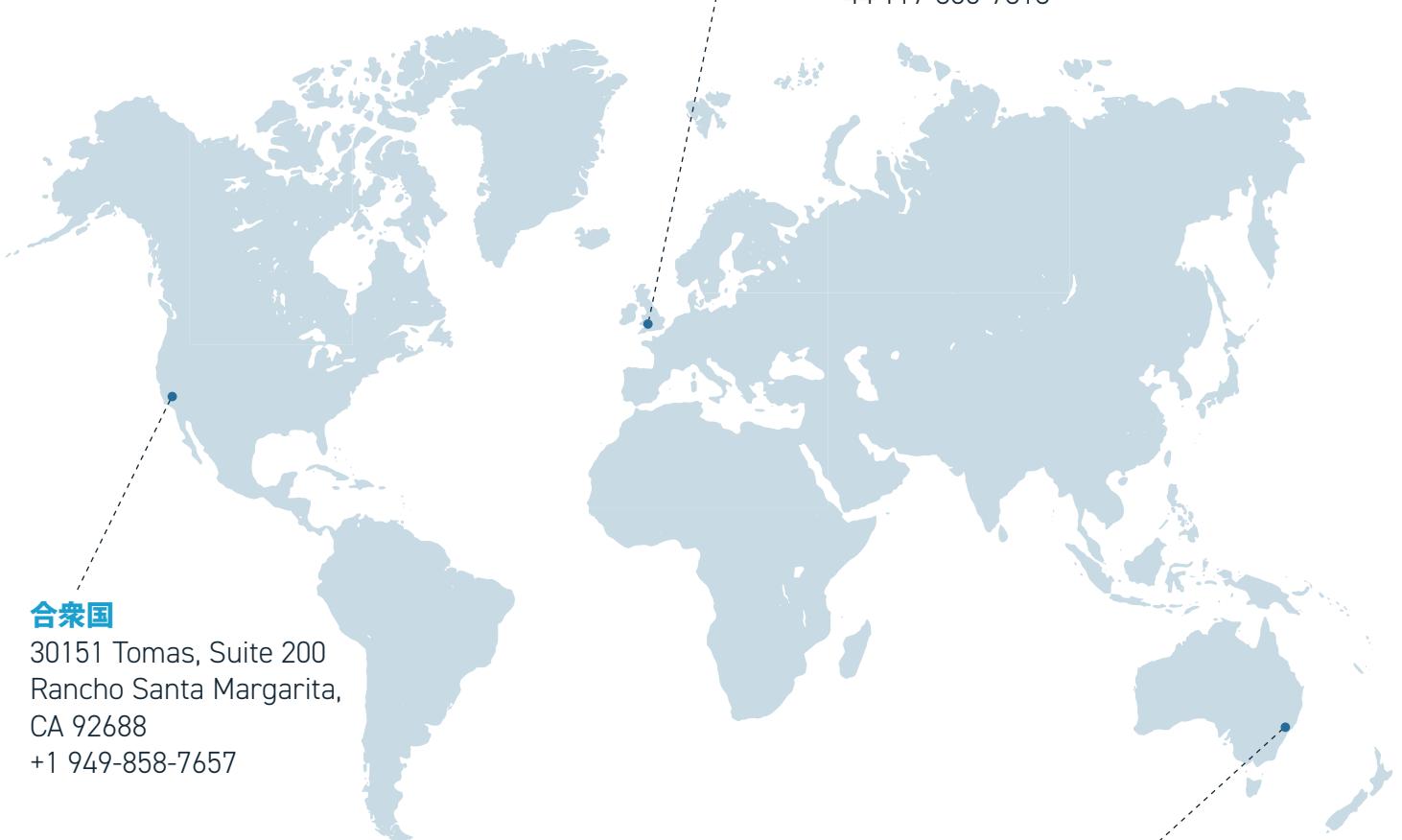
コミュニティ・コーディネーター  
**Peta Day**

コミュニケーション：  
翻訳コーディネーター  
**Stefania Di Dio**

オペレーションコーディネーター、アメリカ  
**Juanita Seino**

オペレーションコーディネーター、  
アジア・パシフィック  
**Ian Amos**

# 私たちの オフィス



## 連合王国（イギリス）

The Pavilions  
Bridgwater Road  
Bristol BS13 8AE  
United Kingdom  
+44 117-300-7313

## 合衆国

30151 Tomas, Suite 200  
Rancho Santa Margarita,  
CA 92688  
+1 949-858-7657

## オーストラリア

L4 120 Old Pittwater Road  
Brookvale, NSW, 2100 Australia  
+ 61 2-9454-2890

**PADI®ジャパンボランティアオフィス**  
+81 3-5721-1731

# 前に進む

Project AWAREで私たちは、大規模でプラスの変化は世界的なインパクトを目指して地域で行動する私たちひとりひとりから始まると考えています。ですから、海洋保護がもはや不要になる未来に向けて活動するために、私たちはコミュニティ活動というレンズを通して海洋が直面している最大の脅威に対処することを優先しているのです。スクーバ・ダイバーと一緒に活動し、差し迫った環境問題に長く取り組んできた私たちは、海洋の健康が衰えていることについて水中というユニークな視点で捉えています。

2020年に、COVID-19は、人間の健康が私たちと自然界の関係に密接につながっていることを示してくれました。新しい年に向かうにあたって、私たちは、私たちの使命とビジョンを強化し、自然と人間の間のバランスをとるチャンスを得ました。2021年は、世界の海にとって極重要な10年になることを国際連合が期待している最初の年になります。私たちの世界的コミュニティとともに、私たちは「国際連合海洋科学の10年(United Nations Decade of Ocean Science)」と「生態系回復の10年(Decade of Ecosystem Restoration)」を支援し、2030年までに海の健康低下のサイクルを逆転させるため、ユニークな立場にいるのです。

私たちの目の前にある海洋の問題には、みんなが実際に参加するというアプローチが必要です。ダイバーたちは市民科学者として大事な役割を果たすことができます。なぜなら、彼らは情熱や意欲、スキルがあり、多くの人々が見えないところ、気づかないところに何が残っているかを知らせることができるからです。ダイバーたちは、珍しいサメの目撃情報を報告するとか、サンゴ礁の健全さをチェックする、海洋ごみデータを提出するなどしていますが、こうしたひとつひとつの情報や提出されたひとつひとつの調査は世界の海洋生態系を持続的に管理する助けとなる重要な要素なのです。PADIと一緒に、私たちは、影響を与え変化を作り出す世界のダイビング・コミュニティの力を認識し、かつ、活用しています。

私たちは今、海洋と、そして他でもなくこの惑星がこれほどの脅威にさらされていることはないという時代にいますが、私たちは力を合わせて変えようとしています。変化をもたらし、海を守るために継続的な行動をしていただいていることに感謝します。この困難な年に、海を近くに感じて頂いていることに感謝いたします。

海洋保護の支援のために、写真や時間、きつい作業を提供してくれたProject AWAREのボランティアたちに特に感謝の意を表します。



A large shark, likely a hammerhead, swims gracefully through the deep blue ocean. The water has a textured, slightly rippled appearance. The shark's body is dark on top, fading to a lighter shade on the bottom, typical of many shark species.

**WWW.PROJECTAWARE.ORG**

(自然保護が冒険と出会うところ)

**WHERE  
CONSERVATION  
MEETS  
ADVENTURE<sup>SM</sup>**